戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社モルテン　東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7　大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ　www.molten.co.jp

オリンピック出場権獲得と日本ハンドボール強化のための「構造改革」

(財)日本ハンドボール協会理事 **蒲生 晴明**（強化本部長）

2004アテネオリンピックは日本選手団の大活躍で日本国民に「感動と勇気」を与えました。メダルは柔道・水泳・体操・陸上などで37個を獲得し、100名を超える入賞者も出ています。このような素晴らしい成果の反面、オリンピック種目の中で、出場できなかったのは「ハンドボールと近代五種」だけでした。ソウルオリンピック以来、エントリーできないこの状況を「何とかして、20年振り北京オリンピックに出場」し、もう一度世界の舞台に立ちたいと考えるのは、ハンドボール界の総意です。今回、強化本部長就任にあたり、オリンピック出場権獲得を第1課題とし、将来にわたり世界で常時活躍できるように、日本ハンドボール界の強化指導育成環境の「構造改革」を実施していきたいと考えます。

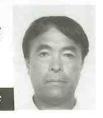
1972年日本がミュンヘンオリンピックに初出場した時から、現代までの間にアジアや世界の情勢は大きく変わってきています。世界各国は「新しい取り組み：競技者の発掘・育成・強化と指導者養成と育成、そしてそれぞれの専任化：プロ化」を中央競技団体が主体性を持ち、国家のバックアップを受けながら必死になって構築し、実行してきました。その結果、フランス・スペイン・アフリカ・南米・中東など、過去世界の強豪でなかった国々が、オリンピックや世界選手権に常に出場、上位にランクされるまでに強化され、結果を残してきました。日本ハンドボール協会も、諸先輩の並々ならぬ努力の結果、20世紀の強化結果が残されたと思います。さらに今後は、21世紀の取り組みとして、「ナショナルトレーニングシステム（NTS）：競技者育成プログラム」をシステムとして、日本ハンドボール界の総意を傾注し、競技者の発掘・育成・強化と指導者の養成・育成を実施していきたいと考えます。また、各年齢層のUnderナショナルチームは、全国の指導者の皆様方とUnderスタッフチームが協力して、NTSから発掘し、少数精鋭集団で継続的に強化・育成していきたいと思います。当然ながら、力の発揮できない者や怪我をした者などは常時入れ替えを実施し、「ナショナルチーム以外の選手は全て候補選手」としてステイタスとモチベーション、さらに競争意識を持ってもらいたいと考えております。また、各年代カテゴリーの強化活動は各年代の皆さんが積極的な協力体制を持って強化育成していくこともお願いしたいと思います。

最大の目標は「北京オリンピック出場」です。2007年開催予定の北京オリンピックアジア予選の日本開催誘致、日本代表チームの強化、そして財政確保が最優先課題です。スタッフ陣の強化、選手の強化・育成を実施していくことは当然ですし、その上で重要なのは日本リーグの強化であり、日本代表チームスタッフと充分な連携をとっていかねばなりません。世界の強豪国は選手もスタッフもプロです。同じレベルで強化しない限り対等の勝負は困難であります。従って、プロ化検討プロジェクトを立ち上げて検討していきます。

中長期的な強化・育成については、NTSを柱に実施し、指導者スタッフの養成と育成のためにトップコーチ研修を日本リーグコーチや大学・高校チームコーチなどを対象に開催したいと考えております。選手の発掘育成については、2000年からスタートしましたNTSを県レベルに拡大し、都道府県での取り組みを実施する中で、クリエティブな選手などの情報を都道府県→ブロック→センターと推薦していただくことによって実施していきたいと考えております。本年は、このような考え方を「セクションを越えた協力体制」として、競技者育成技術委員会を通じて体制構築してまいりたいと考えます。皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

男子：湧永製薬、女子：広島メイプルレッズ、広島アベック優勝

地元・大阪県協会の声

第56回全日本総合ハンドボール選手権大会を終えて

大阪ハンドボール協会理事長　中村　博幸

はじめに

大阪は過去数多くの全国大会や国際大会を開催してまいりましたが、不思議なことに全日本総合ハンドボール選手権大会の開催は初めてでした。大会運営のノウハウは過去の経験で不安はなかったのですが、会場確保・観客動員・TV放映・予算等々新たな悩みが山積みでした。前年開催の広島の山本一理事長に相談にのっていただき、広島での大会を参考に、大阪独自の大会を目指しました。全日本総合ハンドボール選手権大会の名前にふさわしい体育館として、まず今回開催した大阪市中央体育館の確保から始まりました。大阪は色々なイベントが多く、体育館の確保が非常に難しく、2年前からすべての行事を後回しにして、優先開催が決定しました。

大会成功に向けて

次に観客8000人規模の体育館への観客動員、TV放映に応えられるかという不安が発生しました。事前に中学・高校・大学・社会人の各団体に前売り券での観客動員のお願い、各施設へのポスター掲示等々工夫をこらしたのですが、なかなか伸びず、入場料収入を度外視して、招待券を多数配布し、何とか目指していた約2000人の観客数を確保できました。また選手の皆さんに気持ちよくプレーしていただくために、決勝はタラフレックスコートを用意させていただきました。TV映りがよくプレーしやすいと好評なのですが、敷き詰めるのに労力（約4時間）と費用がかかり過ぎるのが難点で、常時使用というわけには、なかなかいきません。TV放映は土曜日の男子決勝だけでしたが、ハンドボール放映初のカメラ7台を導入しての中継でした。事前の打ち合わせもかなり入念で、1時間45分の放映予定ということで決定しました。しかし延長戦での決着で、ハラハラ・ドキドキしたのですが、NHKの御厚意により5時05分まで延長していただき、劇的な結末を全国放映できたことに、関係者一同非常にうれしく思っております。また観客にわかりやすく、そして盛り上げるためにプロの実況解説（本来競輪の実況専門）を導入したのもなかなか好評でした。

今大会は1時間30分のインターバルの時程で試合行い、各チームの皆様にはご迷惑をおかけしましたが、競技役員・補助員の確保ということで、午後開催にならざるを得ませんでした。教員が多く、午前中授業で校務を抜けられないといった現状を御理解いただきたいと思います。また色々な大会を重ねる毎に痛切に感じるのが予算に対する不安です。年々広告協賛が減少していく中、施設借用費・物価等々の高騰で赤字開催にならざるを得ないのが現状です。

ハンドボール競技発展のために

ハンドボール競技の人気が向上するためには、トップレベルの試合の充実が求められます。もちろんナショナルチームがオリンピックに出場しマスコミに取り上げられることが絶対条件なのですが、今大会をマッチバイザーの立場として観戦していても、選手のマナー・ベンチ監督のマナーの悪さが目立ちます。判定への不満は勝負をかけていれば多少はあると思いますが、目に余る場面が多かったのは確かです。こういう風に感じるのは私だけでしょうか？若い世代のハンドボーラー達にあこがれと尊敬を持たれるような、プレーヤー・ベンチワークを目指してほしいものです。

また主催者側として挨拶や礼ができない選手や役員が多いのにもびっくりしました。全国どの都道府県でも、自分達が主催する大会は、いい大会にしようと運営面等々にも全力を傾けて努力しています。いたらない面も多々あると思いますが、挨拶やねぎらいの気持ちを言葉や態度に出せば、そこに携わる人の苦労も報われるというものです。ハンドボール界発展のためにも心身共に磨いてほしいものです。辛口コメントで申し訳ないのですが、大阪を代表しての一言として心に残しておいてほしいと思います。

おわりに

ひとまず成功裡に終えることができ、今は胸をなで下ろしております。

最後になりましたが、大会を主催するにあたり、後援をいただきました関係団体、広告協賛の各社、テレビ中継をしてくださったNHK、そして特別協賛の読売新聞社や連日報道をしていただきました報道関係各社に対し、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

表記大会は昨年に続き男子湧永製薬（2年連続13回目）、女子広島メイプルレッズ（6年連続7回目）の広島勢のアベック優勝で幕を閉じた。男子16チーム、女子12チームが参加し、昨年に続き日本リーグ勢が待ち受けるシード方式・トーナメントによって行われた。今大会では高校勢として29年ぶりに出場を果たした小松市立高校（石川県：高校3冠達成）の戦いも印象的であった。（結果はスコアールーム、詳しくは次号掲載）

選手引率をした寝屋川ハンドボールクラブの28名の皆さん。

ハーフタイムショー：チアリーディング
箕面自由学園チアリーダー部の皆さんが見事な演技を披露してくれました。

ポスター、パンフレット表紙イラストは藤代武志さん（フリーデザイナー）の作品でした。

テレビ埼玉の取材で羽賀選手（ホンダ）にインタビューする宇野和男さん（フリーアナウンサー）。

男子決勝戦：マッチバイザーを務める江成常務理事（左）と中村大阪ハンドボール協会理事長。

優勝チームに賞状を授与する大阪読売本社事業局次長前川佳久さん。

最優勝監督賞を授与する大阪ハンドボール協会会長・幸田良一氏。

最後の片付けまで頑張った大阪の高校生達。

広島勢アベック優勝の湧永製薬と広島メイプルレッズの皆さん。

あと一歩、世界に手が届かず

表記大会が9月8日から17日まで、インド・ハイデラバッドで開催された。既に世界選手権出場を決めている男女ナショナル、女子Jr.に続き全てのカテゴリーでの世界選手権出場を期待されての大会であった。しかしながら世界への壁は厚く、あと一歩のところで切符を手にすることは出来なかった。チームメンバー、滝川一徳コーチによるフィジカル分析は次号に掲載いたします。

団長の声

ジュニア強化の必要性を実感

(財)日本ハンドボール協会監事　竹野　奉昭

昨年9月にインド・ハイデラバッドで開催された男子の第9回アジアジュニア選手権 兼 第15回世界ジュニア選手権予選は、インド国内におけるハンドボール競技の地位を誇張する大会で、公式プログラムにはインド協会役員の写真と組織委員会紹介、大会日程だけしか掲載されずAHF関係及び各国のメンバーの紹介はありませんでした。また、公式記録は対戦チーム間のみに渡され、他の試合の結果は配布されず、AHF・PRC副委員長の後藤登氏を通じ、記録・情報の収集をするなど大変お世話になり感謝申し上げます。

私は久し振りに公式国際試合の団長として参加しましたが、今回のU-19の選手団は大学生13名・高校生3名（GK 2名・CP14名）の大学1・2年生中心のチームで、国内の試合もさることながら国際試合の経験不足もあるのか、若さと気迫が感じられなかったのは残念に思いました。反面チーム構成・強化の難しさを痛感しました。U-19はこれから日本を背負ってゆく選手達であり、大学においても年齢別の指導・管理をする必要性を感じました。

1位のクウェートはDFで独特なシステムを駆使したり、2位の韓国は高度な個人技術を身につけており、3位のイランは大型化し組織的なプレーと上位の各国ともさらに警戒してゆく必要があります。今後日本が勝つためには1点の重みを知ることで、国内の試合でも1点の攻防を大事にする習慣をつけることと、1：1、2：2、3：3の個人技術・戦術を理解して試合で臨機応変に対応が要求されると思います。また、日本を代表して闘う選手は日本代表選手団としての自覚とU-23、U-19など年齢の違いはあれ年齢相応の技術の高さ・集団への適応力、規律の総合力であり特に規律は団体競技では欠くことはできません。

新強化本部長のもと日本の年齢別のチームが世界に向けて有機的に体系化されてゆくことを希望します。

監督の声

大会を振り返り、今後のユース⇒ジュニアの強化体制作りについて

男子U-19監督　玉村　健次

はじめに

第9回アジア男子ジュニア選手権に参加した日本は、予選リーグはクウェートに次いで2位で突破、準決勝進出を果たしたものの、接戦の末韓国・イランに敗れ4位に終わり、目標であった世界選手権の出場権を獲得する事が出来なかった。

今回のチームは、前回とは違い国際経験が少ない選手構成で挑んだ為、大会の雰囲気など環境に慣れるまでに時間を要した事や、初戦が前回優勝のクウェートで善戦したが、そこで躓き、スタートダッシュが出来なかった事などが敗因ではないかと分析される。

まず意識改革から

海外での戦いに必要不可欠なフィジカルトレーニングに取り組むにあたり、所属チームでの温度差がかなり見られた。今回、高校生3人が活躍した事は次に繋がる明るい材料ではあるが、継続して実施していたフィジカル面において、実際には高校生のフィジカルのレベルが測定結果では上回っている事は事実であり重要な問題点である。

つまりいかに大学生の食生活を含めた私生活での改善・自覚をしなければならないかという課題が明確である。また、大学生とはいえ下級生であるが為に国内での試合経験に乏しく大きな試合になればなるほど1試合をタフに戦う事が出来ない体力面・メンタル面の弱さが見られるのも現状の問題ではないだろうか。今後は大学1・2年生に対する試合、大会などの機会を何らかの形で増やし、下のカテゴリー（U-16・U-19）での充実を図り、経験不足・体力作り・食生活などが思うようにいかないなどという言い訳はナショナルチームには通用しないという“国を代表する選手”としての意識を

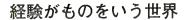
更に高い所におき、モラルの高い体制作りを図りたい。

国際試合で勝つということ

今大会を振り返ると、以前にあった中東勢支配による一方的な大会運営に改善が見え始めたり、韓国のような本来の実力あるチームが勝利する大会に戻ったのかは、今の段階ではどちらとは解らないが、改めて日本は、その両方とものケースに準備をして次回には臨まなくてはならない。

世界選手権出場枠は2つ、クウェートは色々な作戦で当面は上位にいると予想される事から、もう一つの出場権をめぐり準備が必要となる。今後は、強化期間の延長・国際試合の体験・中学⇒高校⇒大学との一環した基本技術指導体制作りなどが課題として挙げられる。今回対戦してみて頂点に手の届くところまできており、12年振りにベスト4に入った事でジュニア世代でのアジア初制覇も夢ではなく、現実味を増してきている事も事実である。次回の大会では、今回より選手も残っており優秀な選手も多数いることから3～5年プランとして考えていただきたい。

チーム提供写真

経験がものをいう世界

そして、予算が今後ジュニア強化（U-16・U-19）に降りてくれるならば定期的に、東アジア（中国・韓国・台湾）へ長期間に渡り強化遠征（大会を渡り歩く）を試みてはどうであろうか？（ヨーロッパならなお更良いのでは）経験のスポーツと呼ばれるハンドボールなどの球技での“経験”とは、若い頃から色々な事・プレーを多く経験した事によりそこから生み出された物が色々な状況に対応し、勝敗を大きく左右する大事な場面での選択材料にもなるのである。

ジュニア世代で成功するには？　それには、U-16 & U-19の充実が必要不可欠ではないだろうか。U-16の活動は、1月のNTSセンタートレーニングで選考した選手達を5月の合宿でメンバーを決め、8月に東アジアに渡り試合を何試合か行ってそこで終了し、以降の強化合宿などは実施されないといった流れで強化しているのが現状である。8月に東アジア遠征に行き、それなりの成果は挙がっているのだが、はたしてそれだけで良いのだろうか？　年1回の海外遠征に行っての強化だけでは後に続くカテゴリーのスタッフは非常に苦労することは歴然である。U-19世代の選手を少ない日数で強化し、ユニフォームに袖を通すのが大会に入ってからになってしまうのであれば、選考してからの2年間はとても短いと言ってもいい。それぐらい厳しい状況なのである。

チーム提供写真

ユースからジュニアへの強化

ただ、日本にとって幸運な事がひとつ増えた。それは、来年度に予定されているユースの国際大会が実施される事である。この大会の準備はU-16で実施、ジュニア大会の準備はユース世代で実施と完全に流れに沿った強化が出来そうである。ユースでの快挙は2年後の世界ジュニア出場に繋がり、世界ジュニアで活躍した世代が世界学生でのベスト4を狙い､その世代がナショナルでのアジア選手権で優勝を果たし、オリンピック出場､そしてメダル獲得と夢は繋がるのである。このカテゴリーで基本をしっかり習得し、日の丸選手としての心構えなどメンタルな面も育成する事が“日本復活”のカギを握っているといっても過言ではない。

次の戦いに向けて

次回の戦いはもうすでに始まっている、流れに乗り遅れないように出た課題に対し早急に対策を練り､実践に移したい。

今回、インドで経験した様々な事を全国のジュニア指導者の方々に知って頂き、何が今必要か、必要で無いかを示し、出来る限り、各方面とのコミュニケーション（繋がり）を図りたい。次回2年後の大会には日本がアジアの王座になるように更なるジュニア強化に邁進する覚悟である。

大会結果と戦評

◆最終順位◆１位；クウェート　２位；韓国　３位；イラン　４位；日本

◆予選リーグ結果◆
〈Ａ組〉１位；韓国　２位；イラン　３　位；カタール　４位；ＵＡＥ　５位；中国
〈Ｂ組〉１位；クウェート　２位；日本　３位；オマーン　４位；チャイニーズタイペイ　５位；インド　６位；バングラデッシュ

【予選リーグ】

≪Ａグループ≫

イラン　30－16　中国
カタール　34－26　ＵＡＥ
イラン　26－21　ＵＡＥ
韓国　33－22　中国
イラン　26－21　カタール
韓国　33－25　ＵＡＥ
カタール　32－24　中国
韓国　30－26　イラン
ＵＡＥ　34－28　中国
韓国　32－26　カタール

≪Ｂグループ≫

第１戦：日本　23（14-15,9-11）26　クウェート

前半立ち上がりから互角の勝負となり、海道、前里の機動力ある攻撃で先行するクウェートに食らいつき 14-15 で前半を終了。後半立ち上がりに連続失点から常時３～４点差を追う戦いとなる。

足の止まった DF にクウェートのカットインプレーを許し、最大６点差のビハインドとなるが、最後まで粘った日本は３点差で敗退。ミスが多く、また追いつけるチャンスにノーマークシュートミス、ラインクロス等のミスが相次ぎ、残念な結果に終わった。明日から全勝しないと苦しい展開となるが、ミスを減らし、何としてもグループ２位につけ、決勝トーナメントに進出したい。

【得点者】海道・小川５，前里４，宮島３，吉田・西山２，雲井・棚原１

第２戦：日本　31（14-7,17-17）24　オマーン

昨日の敗戦から気持ちを切り替えた日本は、立ち上がりから闘志あふれるＤＦを見せ、相手の攻撃をおさえ、藤本・吉田・宮島・小川らの素早い速攻でオマーンを突き放す。後半に入っても要所をしめて相手に主導権を与えず、棚原・服部・岸川のフローター陣も活躍して 31 － 24 で勝利した。後に引けない戦いが続くが、試合を重ねるにつれてチームがひとつになってきており一戦必勝の気持ちで明日からの試合にも臨みたい。

【得点者】岸川・吉田５，服部・棚原４，小川・藤本３，宮島・前里・銘苅２，雲井１

第３戦：日本　42（23-11,19-17）28　インド

立ち上がりから素早いチェックで相手の攻撃のミスを誘い、西山・宮島・藤本らがよく走り前半を 12 点差の大量リードで終了。後半に入ると雲井・服部のスタミナ不足により、相手にカットインプレーを何度も許し、得点の取り合いとなり今後の課題を残した。１敗もできない戦いが続くがチーム一丸となって残り２試合に全力を尽くし、まずは決勝トーナメントに進出したい。

【得点者】雲井７，西山６，吉田・海道・服部・宮島・小川４，岸川・藤本・棚原３

第４戦：日本　42（23-12,19-2）14　バングラデッシュ

地力の勝る日本はスターティングメンバーに小川・棚原・染谷の高校生トリオを起用。固い守りからスピード溢れる攻撃を展開し圧倒する。後半に入っても失点を２とする鉄壁の DF で攻めては速攻で得点を重ね快勝した。小川・棚原・染谷の高校生トリオが合計 23 得点を挙げ、チームに勢いをもたらせた。予選リーグ残り１試合；タイペイ戦に全力を注ぎたい。

【得点者】棚原 12，宮島９，染谷８，服部５，雲井４，小川３，海道１

第５戦：日本　38（20-17,18-12）29　チャイニーズタイペイ

この試合に勝てば準決勝進出が決まる日本は、固さから相手に立ち上がりから３～４点差のリードを奪われる。時間と共に落ち着きを取り戻した日本は固い DF からの速攻で宮島・染谷がよく走り、攻めては海道の絶妙なリードで前半を３点差で折り返す。後半に入っても DF からの速攻で６点連続得点。相手を一気に突き放した。吉田のリーダーシップもチームを１つの輪にしており、９点差で勝利をおさめた。次は韓国と世界への切符をかけての試合。チャレンジャー精神を忘れず 20 年ぶりの出場をかけて全力で戦いたい。

【得点者】宮島８，銘苅７，海道５，小川・岸川４，吉田・前里３，染谷２，雲井・藤本１

オマーン　32－19　チャイニーズタイペイ
インド　50－30　バングラデッシュ
クウェート　51－19　バングラデッシュ

チャイニーズタイペイ	45－38	インド
チャイニーズタイペイ	47－20	バングラデッシュ
クウェート	27－20	オマーン
インド	32－32	オマーン
クウェート	32－17	チャイニーズタイペイ
オマーン	55－16	バングラデッシュ
クウェート	27－24	インド

【順位決定戦】

≪５位－６位決定戦≫

カタール　32（13-11,19-10）21　オマーン

≪７位－８位決定戦≫

ＵＡＥ　41（20-19,21-20）39　チャイニーズタイペイ

≪９位－10位決定戦≫

中　国　36（17-16,19-11）27　インド

≪準決勝≫

日　本　29（11-19,18-15）34　韓　国
（Ｂ組２位）　（Ａ組１位）

前半立ち上がりから一進一退の攻防が続き、韓国のロングシュートを中心とする攻撃に日本はGK谷井の好セーブからの速攻で食い下がる。20分過ぎまで10－11であったが、日本のノーマークシュートを外すミスに韓国のシュートが決まりだし、前半を８点差のビハインドで折り返す。後半に入っても一進一退の攻防が続くものの、点差は縮まらずラスト10分を切ってから固いDFからの速攻が決まりだし、５点差まで追いついたが、それ以上は縮まらず、敗退した。１試合にイージーミスが４本と持ち味は活かせたものの、要所でのBP陣のシュート率に決定的な差があると感じた。３位決定戦に全力を尽くしたい。

【得点者】染谷５, 岸川・服部・小川４, 宮島・藤本・前里３, 海道・雲井・銘苅１

クウェート　19－15　イラン
（Ｂ組１位）　（Ａ組２位）

≪３位決定戦≫

日本　19（7-13,12-11）24　イラン
※日本、本大会４位

前半立ち上がりは両者互角の戦いであったが、時間とともにイランの高さ・パワーが壁となりDFを崩され、本来の速攻が決まらず６点差のビハインドで前半戦終了。後半に入ってDFで粘りを見せ棚原・西山らが連続して得点をあげるものの、走り合いでは日本のよさが活かされるとイランは速攻を出さず、じっくり攻め守る戦略に出て、うまくゲームを展開されてしまった。

【得点者】西山５, 前里・棚原４, 宮島２, 岸川・服部・雲井・小川１

≪決勝≫

クウェート　26－24　韓国

世界男子ハンドボール選手権大会ナショナルチーム壮行会開催

表記大会参加のために合宿の行われた、大崎電気体育館近くの志木デイリーホテルにおいて、１月９日(日)壮行会が開催されました。日本協会からは渡邊会長はじめ役員、大崎電気、湧永製薬、ホンダの各チームからの代表者、アシックス、モルテン協賛各社、遠征チームからは蒲生団長（強化本部長）、松井監督（日本体育大学）、スタッフ、選手18名が参加しました。今壮行会にはインターネットで募集した一般応募者９名と豊田賢治選手（大崎電気）のご両親も同席され総勢55名の会となりました。会は宇野和夫さん、柏崎真理子さん（共にフリーアナウンサー）の司会のもと、各選手の熱気溢れるインタビューや、壮行、激励の言葉、一般参加者と選手の交流など終始和やかな中に進みました。最後に中川善雄主将（大崎電気）の決意表明で幕を閉じました。

勢揃いしたナショナルメンバー

一般参加者と選手の交流

大会の成功と今後のハンドボ

平成16年10月23日(土)～28日(木)、埼玉県、八潮市、三郷市、吉川市を会場に表記大会が開催された。今月号では、関係団体の声をお届けする。大会結果、スコアーは前号に掲載済み。

▶埼玉県ハンドボール協会の声

第59回国民体育大会（彩の国まごころ国体）が終わって思うこと

埼玉県ハンドボール協会理事長　上久保 重次

前回の埼玉国体から30数年、当時は現副会長遠藤健次（当時：浦和市立高等学校）・故高橋健夫（当時：筑波大付属坂戸高等学校）の二巨頭で企画運営にあたられ、競技役員も各埼玉所属の各高等学校OB・OGが中心になって大会運営がなされました。私自身教員チームの一員として参加、覇権を狙う事が使命であったため大会運営には少ししか携わる事が出来ませんでした。今回、2回目の国民体育大会を責任者として運営するにあたり、いまさらながら前回の国体をお二人で切り盛りされたことは驚嘆に値する。

開催が決まった7年前から、候補地選びや市町村教育委員会巡りなどを勤務の合間をぬって行い、折衝時に予定した市から断られ前途多難な幕開けでした。更に困難な状況は続き、幾つかの候補地を決定しなければならない段階で、ようやく八潮市・三郷市・吉川町（現吉川市）に内定したのが、開催の5年前のことでした。

次の段階で体育館の確保に奔走し、将来の夢として構想していたハンドボール専用コートの実現を目指し、故北井晴次（越谷北養護学校長）が提案した専用コートを各市に要望、又、（財）日本ハンドボール協会にも国体開催規定に入れるよう要請しました。しかし取り入れられず断念、世情では各都道府県で吹き荒れた予算縮小政策のあおりをまともに受け、新設の施設は建てないという方針が立てられ、会場が五会場になってしまったことが返す返すも残念でなりません。今、ハンドボール普及プロジェクトが立ち揚げられつつありますが、公設で専用コートを持つ自治体は皆無です。ハンドボール専用コートの確保こそが国体を契機に実現しなければ、普及プロジェクトの実現は立ら後れてしまうのではと苦慮せざるを得ません。

三市開催地実行委員会の絶大なる支援の下、開始式、閉会式まで各会場が今までにない盛り上がりを見せ、熱気に溢れた地元民泊協力会の応援をいただき、運営面では競技役員・競技会役員・補助役員の献身的な働きによって大成功であったと評価できます。これからは、この財産を基に埼玉県ハンドボール協会の結束を更に固め、ハンドボール王国を目指し頑張ろうと思います。終わりにこの紙面をお借りして各関係者の皆様に感謝申し上げます。

▶天皇杯獲得：熊本県ハンドボール協会の声

国体に向けての熊本県の取り組みについて

熊本県ハンドボール協会強化部長　北島 潤一

埼玉県で開催された第59回国民体育大会において、熊本県は5年振り3回目の種目別天皇杯を獲得することができました。これは、昨年度より取り組んでいる、小・中・高・一般と連携したジュニア一貫指導体制整備事業である『KTS』（熊本県トレーニングシステム）による、『熊本県選抜チーム』としての系統的トレーニングを積み重ねた成果であると考えます。日本ハンドボール協会の『NTS』をモデルに熊本県体育協会の補助を受け、『優秀な人材をみつけ、育て、そして全国で活躍できる選手の育成』を目指し事業を展開しています。

《少年男・女の取り組み》

（スタッフ）

九州選抜熊本県予選（11月）の結果を経て、上位チームの監督から3～4名スタッフを選出（その内、KTSのスタッフ1名必ず入れる）中・高・一般の交流を深めるため今年度は、少年男子の監督に佐々木信男氏（ホンダ熊本）、女子のスタッフに中学校時代に指導された中野靖士氏（清水が丘学園）を迎えました。

また、成年男子監督には大宮泉氏（千原台高校教諭）に指揮を執って頂きました。

ール競技の発展

（選手選考及びトレーニング計画）

スタッフにより、11月の県大会で男女各20～25名選出。12月から翌6月にかけて体力測定を含め、月に1～2回のトレーニングを実施。7月中旬に中央トレーニング（1泊2日）を行い12名に選手を絞り、8月の全国総体後は、週5～6回のトレーニングを実施し、その間遠征試合を経て、ブロック大会に臨みました。女子については、国体出場権獲得後、9月は毎週土・日、10月からは週3～4回のトレーニング及び遠征試合を消化し国体に臨みました。

従来より選手の適性の見極め、戦術練習の時間が多く取れたことと、何よりも10ヶ月かけて取り組んできた分、『熊本県選抜チーム』としての一体感が感じられたのが最も成果であったと思います。今後は、JOC（中学選抜チーム）との連携を密接にし、JOC→国体選抜→日本代表選手へと結びつけていきたい。そうすることにより、従来から熊本県においては成年男・女、実業団チーム（男子ホンダ熊本・女子オムロン）があるため、国体においても安定した結果に結びついてきたわけですが、現在の中・高校生が大学に進学し、補強選手としての戦力強化、あるいは卒業後、地元に帰り活躍することにより、より一層盤石な体制ができ上がるものと考えます。

この事業を進めるにあたり、各高校及び関係各位に対し心よりお礼を申し上げるとともに、今後のご協力をお願い申し上げます。

▶地元：八潮市実行委員会の声

彩の国まごころ国体を終えて

埼玉県八潮市企画部参事兼国体推進課長　高橋　登

第59回国民体育大会秋季大会「彩の国まごころ国体」ハンドボール競技会が10月24日から28日までの5日間、市立鶴ケ曽根体育館（エイトアリーナ）及び市立大原中学校体育館の2会場で開催されました。

特に、本大会は①民泊で選手・監督を迎えたこと、②種目が成年男子、少年男子の2種別になったこと、③大会旗・炬火リレーが加わったこと等から、準備にあたっては課題もありましたが成功裡のうちに終了し、安堵しているのが実感であります。

以下、本大会で感じたことを総括的にまとめ報告します。

大会の準備と運営について

①準備について

事務局（企画部国体推進課）において準備を進めてきたが、本格的には昨年6月1日、今大会の実施本部が設立され、本部長(助役)以下236人の体制で打ち合わせを重ね準備を進めてきた。限られた厳しい予算の中で「日本一簡素でまごころのこもった国体」として、最大限の節約を目指した経費節約の中で、各所属の部･班ごとに同時並行で説明会を行い本番に臨んだが、実施本部職員は殆どがリハーサル大会を経験をしていることから、ある面では事務局職員より精通しており、現場では臨機応変に対応をしてくれた。

なお、大会運営については、ハンドボール協会のご支援をいただき、詳細な打ち合わせの中、ご意見ご提言をいただいたことが、大会の準備運営を進めるのに大変役立った。

②仮設施設･テント等の対応

本市のメイン会場（鶴ヶ曽根体育館）は総合体育館ではないことから、仮設施設（プレハブ）･テントを多く設置することになった。なお、準備中台風23号が上陸したことから、仮設施設を一時撤去したため、準備が遅れたが、本大会に支障来たすことなく迎えることができた。

③ボランティア活動

公募のボランティアは限られた人数であったため、市体育協会の全面協力をいただき、市民ボランティア496人のお力をいただきながら運営した。

花いっぱい運動には、従来からこの運動を進めていた市コミュニティ協議会と連携を図りながら行った。

クリーン作戦は、民間のクリーンプロジェクトチームが年間を通して、市全域の清掃を行っていただく中で、八潮市を訪れる方々をきれいな町で迎えるため、大会1週間前に市内一斉に行われた。

④啓発活動

国体をＰＲし、開催機運の盛り上げを図るため、広告看板のほか、5月に県内中学校の「ハンドボール大会」を八潮市で開催、6月には､民泊標語募集から「民泊入選者表彰式」を、8月には市内すべての小学校が参加して行う「市長杯、教育長杯ハンドボール大会」､「100日前記念イベント健康ラジオ体操」を実施した。

民泊について

八潮市は成年男子16チーム、少年男子24チーム計40チームの選手団を市挙げて民泊で迎えることで準備を進めてきたが、直前のキャンセルもなく、特に地元チーム成年男子（大崎電気）の民泊をはじめ全チームの民泊に心から感謝し

ている。参加各チームに「チーム担当」の職員を配置し、各民泊協力会で引き受けチームが決まったときから、チームと民泊協力会の橋渡しとして、来訪前から連絡を取りながら準備を進めてきたが、民泊協力会及び出場された各チームの皆さん双方から大変好評であった。特に民泊協力会の皆さんからは、準備段階から終わりまで、担当によっては、試合の応援もその協力会のユニフォームをいただいて応援させていただいたり、試合終了後の夜の懇親会にもお招きいただいて、深夜にいたるほど内容の濃い懇親を深めさせていただいたという報告があった。また、選手の人たちの応援が何よりも励みになると言っていたが、今回大いに盛り上がったのも民泊による効果と思っている。

今後の抱負（協働のまちづくりを目指して）

今大会では、関係各位のご協力のおかげで、5日間で延べ観覧者は両会場あわせて約32,000人と、大変大勢のご観覧をいただくことができ、事務局として心から感謝している。

また、全国から予選を勝ち抜いて来られた選手の皆さんは、頂点を決するにふさわしい好ゲームを連日繰り広げられ、詰めかけた多くの観衆を魅了するとともに、市民にも大きな感動と感激を与えてくれました。

本市の多田重美市長は、本国体では3点の効果があったとしている。

①国体を通じて、全国に八潮市の情報発信が出来たこと。

②ハンドボール競技の素晴らしさや感動を通して、スポーツの振興に大きな効果が期待できたこと。

③全町会・自治会及び社会奉仕団体が民泊協力会を設立し、民泊で全国から選手・監督をお迎えしたことから、かつてないまとまりを見ることができ、市民力が高まり、これからのまちづくりに活かす基盤づくりができたこと。

国体を契機として、町会同士の連携・協力が活発になり、また市民の地域参加に対する意識活動の高揚が芽生えてきたように見受けられる。今後はこの高まりを一過性で終わることなく、まちづくりに活かしていきたいと考えている。

▶地元：三郷市実行委員会の声

彩の国まごころ国体を終えて

三郷市国体推進室　**有村　英子**

三郷市は、埼玉県の東南端に位置し、都心から20km圏内にあります。東は江戸川を挟んで千葉県松戸市・流山市と、南は「フーテンの寅さん」で有名な柴又のある東京都葛飾区に接しています。大型の公団住宅や首都高速道路・常磐自動車道・外かん自動車道を結ぶインターチェンジ等が整備され、今年の秋には「つくばエクスプレス」（つくば～秋葉原間）が開業予定で、市内3つ目の駅となる三郷中央駅が誕生します。

当市では10月24日～28日にかけて、「第59回国民体育大会（彩の国まごころ国体）ハンドボール競技会成年女子」を開催しました。競技会場となる三郷市総合体育館の会場設営が着々と開始された大会4日前、昨年8月のリハーサル大会前の再現かと思わせる台風23号の通過で、沿道の歓迎装飾を急きょ撤収せざるを得ない事態が発生、翌日には急ピッチで設置が行われました。また式典リハーサル前日には急きょプラカード保持者の練習を会場で行うことにしました。30人の中学生にお願いしていたため、皆に分かりやすく理解してもらいながら指導している担当職員の熱心さが伝わりました。大会前日は、市職員の実施本部員を動員しての担当業務再確認と開始式・表彰式の式典練習や、競技会場設営の最終確認。大会の成功に向け、皆で意思統一を図りました。

会場全体をみて初めて分かる不具合等を調整し、多少の不安と期待の中、ついに迎えた大会当日。カラーコートの敷かれた競技会場は、昨年見た静岡国体に勝るとも劣らない立派な国体会場が目の前に広がっていました。県外宿泊地から選手の皆さんが一斉に駅に到着したとの連絡に安堵し、シャトルバスが会場に着くや否や、子ども達による和太鼓の歓迎演奏が元気よく爽やかな秋空に響き渡りました。定刻には開始式が開会し、2階席から見守っていた私は、「今までこの瞬間を見るために準備してきて、やっと今始まった」と強く実感し、同時にこみ上げてくるものがありました。先催県で視察した時は知り得なかった運営側としての立場に立つと、多くの関係機関からご指導をいただき準備に万全を期していたつもりが、大会が始まれば臨機応変に対応しなければならないことの連続。しかし、リハーサル大会の経験によって、実施本部員（市職員）・市民協力員の状況判断、後ろ盾となる競技関係者との密な連絡調整が十分に活かされた結果となりました。

有村英子さんと大会マスコット「コバトン」

初日は埼玉県チームの試合があったため、観覧席は立ち見が出る程の観客で賑わい、声援もひときわ大きくなっていました。1ゴール決めるごとに歓声が上がり、選手もそれに応えるように笑顔を返し、まさに会場が一体となっていました。他の試合でも競技補助員の高校生による応援パフォーマンス

で賑わいを見せ、会場を大いに盛り上げてくれました。また、観戦に訪れた小中学生もそれにつられるように応援合戦を始め、実に微笑ましい地域交流に一役買った国体となりました。

昨年のリハーサル大会と同じように、選手にサインを求めたりすれちがう時に「がんばって！」「ありがとうございます」と声を交わしたり、人が集まることで交流の場が自然と作られていたように思えます。また市民協力員の方からは、参加したことで、「三郷市民であることを実感できた」「初めてハンドボールを観たけど楽しかった」とありがたい反響を頂きました。

国体を開催することは単に競技会を開催することではなく、国体を契機に各自治体の地域住民との関わり方やあり方を見直す良い機会でもあったと思います。実行委員会の設立、市民協力員募集、各関係機関・団体への依頼等々、多くの方々の理解、協力及び「彩の国まごころ国体」の愛称のとおり「まごころ」に支えられた“市民総参加”の心に残った国体であったと自負しております。

最後に、国体競技会運営に多大なるご指導、ご支援をいただきましたハンドボール協会関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

▶地元：吉川市実行委員会の声

吉川市の民泊

吉川市国体推進課主査　荒木　昌彦

「国体の成功は、民泊の成功にかかっている」この言葉を先催県の国体担当者達は、口を揃えて言う。果たしてそんな重要な業務が私にできるのだろうか常に不安がつきまとった。

私が国体担当として配属されたのが平成13年4月1日、このとき既に吉川市では民泊を実施することが決まっていました。民泊の形態は「共同民泊」、まず共同民泊を理解するのに2ヶ月を要し、その後16の民泊協力会を組織するために自治会を中心に民泊受入れの説明会を平成13年7月から開催、平成14年7月からは、民泊協力会立ち上げの説明会を開催、平成14年12月に第1号となる民泊協力会の設立総会が開催され、平成15年4月には16の民泊協力会が設立されました。その後、平成15年・16年度の民泊協力会の総会を各民泊協力会で開催していただき、私がこれら説明会等に携わった回数は、延べ100回を超えました。

民泊業務に必要なのは、担当者が民泊の内容を十分に理解し、当該市に合った民泊の形態や実施の方法などを確立すること。

民泊協力会に対して心がけていたことは、民泊協力会の方々の不安をいかにして解消できるかということです。これらを踏まえて考えると必然的にやらなくてはならない業務が次々と頭に浮かんできました。

具体的には、各民泊協力会の代表者32名で構成した民泊運営員会を設立し、案件事項の協議及び情報交換の場として延べ11回運営委員会を開催することにより、事務局と民泊協力会とで常に情報及び現状の状況を共有するとともに民泊業務の方向性を見出すことができました。この運営委員会に諮って行った主な事業としては、各民泊協力会において開催した総会（15年度・16年度）、民泊決起大会、応援講習会及びチーム抽選会などです。

富新田民泊協会の皆さん

少年女子3位の愛知県選手と民泊協会の皆さん

また、各民泊協力会調理班の班長16名で構成した調理講習等連絡協議会を設立し、吉川市標準献立を普及するための調理講習会の実施方法、支給調理器具の品目、検便の実施方法及び食品衛生講習会などについて延べ7回開催し、それぞれ円滑に行うことができ、大会を迎える準備が整いました。

選手団が来県した日は、各民泊協力会で趣向を凝らした歓迎会を開催し、試合会場では、声を枯らすほど一生懸命選手を応援し続ける民泊協力会の応援団、選手もその応援に応えようと必死にプレーをする光景が会場を盛り上げる。選手団が帰郷する日の前夜には、別れを惜しむ送別会が盛大に開催され、お互いの絆がより一層深まる。お別れの日は、涙をこらえられない選手達と民泊協力会の方々との姿が吉川市の民泊の成功と国体の成功を物語る。

この大会は、民泊協力会が起爆剤となり、多くの市民の方の協力を得て、「すばらしい国体」・「生涯忘れることのできない国体」を開催することができました。私も胸を張って言えます「国体の成功は、民泊の成功にかかっている」と。

▶プレーヤーの視点での大会運営

「市職員としての自分」と「競技や競技団体に精通する自分」

八潮市企画部国体推進課　長岡　洋行

八潮市役所に入庁したきっかけ

三陽商会に在籍していた平成５年の結婚を機に、家内の実家がある八潮市に移り住み、数年後、市役所を訪ねたときに、国体のハンドボール競技（成年・少年男子）が開催されることを知りました。当時はまだ三陽商会に在籍していましたが、国体が開催されるころは、自分自身が選手としての参加は年齢的にも無理と思い、何か国体のために役に立てればと思っていた時、八潮市の国体準備室の方から、市内ハンドボール教室の講師依頼を受け、数回講師をしました。それ以来、国体担当の職員と国体の準備等の話をさせて頂きました。三陽商会が休部となり、その夏のハンドボール教室の終了後、職員採用試験の話を頂き、自分も転職を考えていたこともあり、採用試験を受けて今日に至っております。

大会運営に参加して（大会を成功させるためには）

大会運営については、「市職員としての自分」と「競技や競技団体に精通する自分」の両方の立場から大会を成功させるために、どのようにしなくてはいけないかが一番のプレッシャーとなりました。

市職員としての経験がないため、職員としての知識、行動等をまず覚えることから始まり、大会運営にどのように携わるのか、どのような業務や調整等が有るかを知りました。入庁の翌年には、「国体リハーサル大会」の開催が待ち受けており、どのようにして業務を遂行させればよいかを上司、先輩職員の方々にいろいろと教えて頂きました。

ただ一言で大会運営といっても、輸送・交通・宿泊・式典・医事・衛生・ボランティア等様々な業務があり、自分は今まで選手として大会に参加していただけですが、大会開催までにはいろいろな準備をしなくてはならないことをはじめて知りました。

自分が担当した訳ではありませんが、国体時における宿泊が、本市では民泊ということで、担当された上司、先輩職員の方達は、大変苦労されておりました。市民の方に民泊というものを理解していただき、また国体、ハンドボール競技というものを理解していただくのに、相当の労力を費やされていました。ハンドボール競技を知らない市民の方が多かったことから、ハンドボール競技を理解して頂くためには、実際に観戦して頂くのが一番と思い、大崎電気の協力を得て、日本リーグを観戦、観戦後に選手と共に国体１年前イベント等を開催して、一人でも多くの方に観戦して頂くことに協力させていただきました。

また、国体担当職員として、選手の声を聞いて貰おうと三陽商会時代に一緒にプレーしていた大崎電気の選手に協力して頂いて、今までの国体を準備されていた事務局ではありえなかったことかも知れませんが、本市の市長、助役、国体担当職員と日本リーグの選手数名との交流をさせて頂き、選手の考え方等を直接聞けたのが、成功への一歩と思いました。国体担当職員との交流も一度ではなく何度か続くにうちに、ハンドボール競技を知らなかった職員も選手個人のファンになった人、競技に魅了された人達が着実に増えていきました。国体終了後に開催された日本リーグでも、また選手に会えるということで、国体担当職員がボランティアで駐車場係をお手伝いさせて頂き、その夜は言うまでもなく、交流会をさせて頂きました。このような小さなことかも知れませんが、「人が人を呼ぶ」という良い意味で啓発活動が行えたと思います。

運営者の視点で判ったこと

運営者の視点で判ったことは、競技団体と行政との調整役が必ず必要ということです。競技団体はどのような事を求めて、行政としてどのような方向で国体業務を進めていくのか調整役が、特に行政側に必要だと思いました。たまたま今大会の運営側（行政）に自分がいたため、自分が中央競技団体、県競技団体と三市の事務局の調整役を必然的に行ってきましたが、自分の職員としての国体準備の業務、またその業務に接点がある競技団体と調整と調整後の三市の事務局との調整等々があり、自分自身があと二人欲しいくらい忙しかったです。

但し、この調整役を行うにあたって、すべて自分一人で行ってしまいますと諸問題も発生する可能性があるため、必ず他の二市事務局の競技運営担当者と合同で行いました。また競技団体との関係も仕事上だけの付き合い方でなく、プレーヤーとしての付き合い方もさせていただき、三市の競技運営担当者と県競技団体との交流会も幾度となく行われ、色々なことを包み隠さず話せたのが良かったと思いました。双方の考えが歩み寄らなかったら、この国体の成功はなかったと思います。

大会運営へのアドバイス

後催県の事務局の方で、ハンドボール競技に精通されている方は少ないと思います。前述させて頂きましたが、競技団体と行政側と打合せを幾度となく行うことだと思います。双方の方向性をお互いに理解できるよう業務を進められるとよいと思います。

今後の問題と課題について

今後の問題としては、観客の動員が出てくると思います。本市で行った開始式、競技、総合表彰式においては、今まで開催された国体の中でも、大変盛り上がった大会だと思っております。特に表彰式においては、例のない観客数だと思っています。本市の場合は、民泊を行ったことにより選手と民泊を引き受けて頂いた民泊協力会（町会）の方々との交流のおかげだと思います。競技において都道府県代表の白熱した試合だけでなく、民泊協力会（町会）同士の応援合戦にも発展したことで、より一層距離が短くなり、ある意味町会の代表が国体に参加しているという雰囲気になっていたと思います。そのため、協力会の代表として選手が表彰式に参加していることから、民泊協力会の方々も観客としてではなく、選手と同じ表彰式に参加しているという気持ちになったのではないかと思います。

このような事から、観客動員が多い場合は、国体の意義は問われないと思いますが、やはり、観客動員が少ない場合には、国体の意義が問われると思います。行政としては、動員計画はどのように行わなくてはいけないか、また、競技団体としても同様に考えなくてはならないと思います。民泊がすべてとは思いませんが、本市では民泊のおかげで、大会が盛り上がり皆様の記憶に残る大会になったと思います。

また、課題としては、競技団体発行の国体開催マニュアルのようなものが、行政側にあるとよいかと思います。国体開催するためのマニュアルはありますが、競技団体に対してのマニュアルが無いため、開催する都道府県、市町村によって準備段階から開催までの諸業務が異なり、開催時に先催県との比較をされ、大会開催に協力して頂いた職員は、事務局の指示に従って業務を進めておりましたが、大会関係者の一言により職員は大変ショックを受けたことがありました。それにより、ハンドボール競技関係者のすべてが本市の進め方を比較していると思われてしまいますので、ある程度のマニュアルは必要かと思います。一例として、①委嘱状の配布方法、②参加章の配布方法、③代表者会議の開催方法、④諸会議、競技会場の受付の方法、⑤動向表、⑥競技用備品、競技用消耗品リスト、⑦派遣依頼等の送付先一覧表等が考えられます。

日本リーグ、三陽商会で活躍されていた頃の長岡さん

また、国体開催後に、日本リーグ等の開催を行って頂きたいと思います。国体の盛り上がりを一過性のものとされない方がよいと思います。国体終了後、本市と三郷市で日本リーグが開催され、民泊をしていただいた北陸電力、大同特殊鋼、ホンダ熊本、大崎電気のチームの応援に、民泊を受入れた民泊協力会の方々が大勢訪れ、選手達と交流している姿を多く見受けました。

最後に、今大会でご協力頂いた選手、監督、（財）日本ハンドボール協会、埼玉県ハンドボール協会の皆様に、失礼な言動、行動があったことを深くお詫びいたします。

また、本市国体ハンドボール競技会運営ご協力していただき、誠にありがとうございました。

国体開催中に起きました新潟県中越地震義援金の呼びかけが各会場で行われました。多く方々の善意の義援金が埼玉県ハンドボール協会から埼玉新聞・社会福祉事業部へ寄附されました。平成16年11月11日付け埼玉新聞・スポーツ面に掲載されました紹介記事を掲載致します。被害にあわれました方々が、1日も早く元気になられますようにお祈りいたします。

曲走路

○…日本ハンドボール協会と県ハンドボール協会は10日、10月28日まで行われた埼玉国体秋季大会のハンドボール競技の会場で集めた募金52万2668円を、新潟県中越地震災害の義援金として埼玉新聞・社会福祉事業団へ寄託した。

両協会は地震の被害が甚大と判明した26日に、急きょ3市4会場に募金箱を設置。ハーフタイムや試合の合間に放送で呼び掛けると、各都道府県代表の選手、監督をはじめ、応援に訪れた民泊協力会の人や一般観覧者らが応じたという。代表して寄託した県ハンドボール協会の田中英俊総務委員長（浦和南高教）＝写真右＝と土屋雅男経理委員長（岩槻北陵高教）＝同左＝は、「『まごころ国体』という大会の愛称のように、全国からの真心が被災地の人たちに伝われば」と話していた。

平成16年11月11日埼玉新聞より転載

～黒子―実はエース？～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

時の経つのは早い。年齢のためかどうかはここでは別にして、悔しい思いをしたアテネ五輪からもう５カ月が経過した。とにかく08年の北京大会へ準備を急がなければ、また重苦しいムードに包まれることにならないとも限らない。

アテネ五輪で銀メダルに輝いた韓国代表の支えだった広島メイプルレッズ林五卿監督のインタビューを今回から始めた。世界を目指した思い、きびしい練習、世界の頂点を極めた感激、さらには青少年へのアドバイス、日本代表へのエールや提言などを３回連載でお届けする予定です。どのような貴重な意見が飛び出すか、ご期待ください。

ところで日本リーグもいよいよ終盤戦。プレーオフ進出をねらって激しいせめぎ合いが展開されています。順位争いとともに、個人タイトルの行方にも注目が集まります。得点王は、シュート率賞は…。

ただ、こうした個人タイトルにもう一つ加えたいと考えているものがあります。アシスト賞です。確かにゴールを決めた選手は目立ちます。何もハンドボールに限ったことではありません。野球でもホームランやサヨナラ安打を打てばヒーローとしてお立ち台に上がる機会が増えます。

しかし、派手な振る舞いだけが勝負のヒーローではありません。得点機を演出した選手がいるからこそヒーローが誕生するのです。チームプレーは特にそうではないでしょうか。

試合のカギを握るのがゲームコントロールをする選手ではないかと思うのです。ゴールに結びつくまでのチャンスを演出する選手こそ、チームにとっては最大の功労者のはずです。中身の濃い試合は見ているファンをとりこにするのではないかと思うのです。

「今度はどこにパスをするか」「どんな選手をつかってＤＦ網を破るか」など興味は尽きないはずです。「黒子」といえるかもしれないけれど、実は「エース」と言える働きをする選手が試合の主導権を握るためには欠かせないのです。

こうした選手に対するタイトルがないのは、残念なのです。陰で支え、勝負に確実に絡む選手こそ、表彰に値すると思うのですが…。得点を稼ぐよりチームの勝利に貢献したい―そんな選手こそを真のエースと呼びたい。すばらしいアシスト役を讃えたい。私の05年初夢はそんな余韻を残してくれています。

NTS2004報告

NTSコーディネーター　栗山　雅倫

2004年度センタートレーニングが、まずは高校生を対象にスタートいたしました。今回も例年通りの熱気溢れるプレーと、例年以上の大型選手が集まった充実した会となっています。益々の皆様方のご指導とご支援をお願い申し上げます。
さて、今回のトレーニング内容の例（OFについて･･･詳細は各ブロックからの報告をお待ち下さい）を、お知らせさせて頂きます。下記をご参照下さい。

【OF】

1．テーマ
・機動的な攻撃と個人の解決

2．技術戦術課題
・Good habitの中での個人の工夫
　　Before the ball Positioning + Timing of start
　　On the ball Good body shape + Shoot or Pass
　　After the ball Repositioning
・牽制のあるDFに対しての攻撃
　　個人または2人のコンビネーションによる工夫
　　個人の工夫に対する他のプレーヤーの連動

トレーニング内容

（1）ウォーミングアップ＆個人の技術戦術の準備
　①3人組のパス
　目的＆狙い：Good habitの確認
　　　　　　　牽制するDFに対するバックプレーヤーのPlay before the ball
　　　　　　　センタープレーヤのGood body shape

　②ポストプレーヤーのPlay on the ball
　目的＆狙い：ポストプレーヤーのGood body shape
　　　　　　　バックコートプレーヤーの連動

　③バックプレーヤーとポストプレーヤーとのコンビネーション
　目的＆狙い：ポストプレーヤーのPlay before the ball
　　　　　　　ポストプレーヤーのSide ScreenとバックプレーヤーのPlay on the ball
　　　　　　　バックプレーヤーのGood body shape

（2）牽制のあるDFに対しての4対4
　目的＆狙い：センターポジションの4対4を以下の工夫を用いて
　　　　　　　（1）の狙いを利用して
　　　　　　　きっかけの後の連動（Play after the ballにもフォーカスして）

米国のスポーツ事情とハンドボールについて

元㈶日本ハンドボール協会参事　徳高 康弘

スポーツ大国アメリカ

米国ほどスポーツビジネスが栄えている国は珍しいような気がする。いわゆる四大プロスポーツ（フットボール、野球、バスケットボール、アイスホッケー）の人気は絶大で、特にフットボールに関しては､全米中が秋のシーズンインを心待ちにし、マイアミやサンディエゴといった温暖な都市はともかく、零下20度に達しようかという寒さの厳しい街でも、よほどの弱小チームでない限りはチケットの売れ行きは上々。試合が開催される日曜日ともなると、スポーツ専門チャンネルはもちろん、各キー局でさえ、午前中から当日の試合予想を行い、午後から夜にかけて延々と試合中継をしているような状況である。

と、ここまでは欧州におけるサッカーと事情が似通っていると思うが、米国のスポーツビジネスの恐ろしいところは、学生スポーツ、特にフットボールとバスケットボールが頻繁にテレビ中継され、絶大な人気を誇っている点であり、プロよりも学生の試合の方が応援に熱が入るという人も少なくない。秋口から年末にかけて毎週土曜日に開催される学生フットボールの試合は、テレビ局の重要なソフトになっており、報道によれば、年初のボウルゲーム4試合の放映権が4年3.2億ドルという高値で取引されたとのこと。この時期の週末は､土曜日は学生、日曜はプロと、家でごろごろしながらフットボール三昧というお父さんも珍しくない。

ボウルゲームが終了して学生フットボールのシーズンが幕を閉じると、人々の関心はバスケットボールへと移っていく。レギュラーシーズン上位校が全米一の座を争うNCAA（全米学生体育協会）トーナメントは､通称「March Madness」と呼ばれ、全米中がバスケットボール一色になると言っても過言ではない。筆者の友人にも、「3月はバスケのせいで仕事にならない」などとうそぶく連中がちらほら…。

更に付言すると、これは文化的背景と言うか、基本的に米国の50州はそれぞれ独立した存在であるという米国の歴史的側面が大いに影響しているものと思われるが、とにかく地元チームへの愛着心がすごい。プロチームはもちろん、大学のチームについても、たとえ自身の母校でなくとも、老若男女こぞって熱狂的に応援し、相手チームには容赦ないブーイングが飛ぶ。この風景を目の当たりにした人は、真のフランチャイズというものを実感させられるに違いない。

ハンドボールはマイナー競技

しかし、これほどのスポーツ大国アメリカにおいても、ハンドボールのことを知っている人はほぼ皆無に等しい。それどころか、米国でハンドボールと言えば、手にグローブのようなものをつけて1対1または2対2で行うスカッシュのような競技のことを指すのが通例のようで、筆者が「日本ではハンドボールのGKを務めていた」などと話をすると、なぜハンドボールにGKが必要なのかと怪訝な顔をされることもしばしばである（余談になるが、筆者の学生時代の先輩は、妹君が米国土産で買ってきたハンドボール少年の絵柄入りTシャツを練習着として使用されていたが、確かにその少年は手にグローブをはめていた）。現在ワシントンDCに勤務している筆者は、本誌5月号（2004年）で紹介されていたDC Diplomatsというチームに加入したが、メンバーの大半は移民か、または筆者のような海外赴任者であり、生粋の米国市民にはほとんどお目にかかっていない。1996年のアトランタ五輪を機に、米国でも少しはハンドボールの輪が広がったようだが、同五輪終了後は活動も低迷しており、米国ハンドボール協会も苦しい舵取りを強いられている模様である。

人材難と財政難

本年夏のアテネ五輪を独占中継したNBCテレビのウェブサイトには､ハンドボール中継の解説を務めた元米国代表ドーン・ルイス氏のコラムが掲載されていたが、そこでは米国ハンドボール界の苦境がはっきりと記されていた。以下、当該コラムに記されていた内容を紹介するが、どうやら人材難と財政難という非常に根本的な問題を抱えている模様である。

人材供給面では、ハンドボールがNCAAの奨学金対象競技に指定されていないことが一番の問題点だとされていた。学生時代にフットボールやバスケットボールの有力選手であったとしても､プロの世界に進めるのはほんの一握りでしかないため、これらの競技から少し人材を分けてもらうだけでも、米国のハンドボール事情は一変するかもしれない。しかし、現実には、運動能力の高い選手は根こそぎ人気競技に取られてしまい、またハンドボール部がない大学も多いため、人材発掘は思うように進んでいないようである。

更に深刻なのが財政難である。上記のとおり、米国ではハンドボールという競技自体、まったくと言って良いほど認知されていない状況であり、その中で資金集めを行うのは、いくら寄付金大国アメリカといえども、雲をつかむような話である。また、五輪協会からは、各競技団体の成績に応じて補助金が配分される仕組みになっているが、ハンドボール協会への補助金は2000年当時に比べて半額、代表強化資金も少額に留まっており、これでは欧州から有能なコーチングスタッフを招聘することは到底不可能。協会では、何とか事務局員3名とコーチ陣を確保しているが、いずれも薄給であり、協会長に至っては無給のボランティアだそうである。また、米国代表は男女共にアテネ五輪に出場できなかったため、資金集めは難航を極めており、現在の予算規模では海外遠征もままならないようである。

おわりに

米国人アスリートの身体能力が総じて非常に高いことは、プロスポーツの中継を見れば一目瞭然である。また、米国人は、平均してみれば背の高い人はそう多くはないのだが、高い人は図抜けて高いというのが正直な印象であり、彼らがバスケットボールやバレーボールだけでなく、ハンドボールに進出してきたら、代表チームも一気に強くなり、瞬く間に世界トップクラスにのし上がったとしても不思議ではない。

しかしながら、前述のとおり、米国ハンドボール界の現状は非常に苦しく、一朝一夕で事態が好転するとも思われない。スポーツビジネスが四大スポーツを中心に回っており、他にもサッカーやカーレースといった人気競技がある中で、ハンドボール界が有能な人材と資金を確保するのは、かなり困難な作業であろう。米国にハンドボール文化が根付くには、まだまだ道のりは険しい、というのが筆者の感想である。

ハンドボール今昔物語

(財)日本ハンドボール協会評議員　寺垣　俊彦（石川県）

寺垣俊彦氏略歴：昭和22年石川県ハンドボール協会創立に参加。神奈川国体にて日本体育協会より表彰。米谷氏と共に昭和50年頃北國銀行ハンドボール部創部、1978年より日本リーグ加盟。日本リーグ運営委員（1978～1993）。現在、日本協会評議員、石川県ハンドボール協会副会長。

金沢大学グランドにて

終戦から1カ年後、元全日本監督の村田弘氏を招いて、金沢市の第四高等学校（旧制）ハンドボール部を創部した。昭和22年6月のある日のことであった。全員が練習している運動場のそばで白髪の紳士とスケッチブックを持った青年がニコニコ笑って立ちながら話しかけてきた。当時、ハンドボール協会の会長であった式場隆三郎氏と若き日の画家・山下清氏であった。日本各地を巡り、ハンドボール（送球）を普及するために努力しているとのことだった。後日、画家として有名になった山下清氏、その時のスケッチを頂戴しておけば良かったと今、後悔している。

大学ハンドボールの隆盛

第二次世界大戦の頃は、ハンドボールは送球といい11人制の競技であった。送球発祥地はデンマークであり、ドイツに伝わったと教えられてきた。日本では戦中から戦後にかけて日本体育大学（旧専門学校）が隆盛を極めた。当時、村田、島田氏等優れた選手が多かった。特に、ドイツ遠征時にゴール・キーパーとして活躍した島田氏の横跳びは有名であったと聞いている。

昭和22年は京都大学のグランドで全国高等学校（旧制）大会があり、5つの学校が出場し、試合結果について朝日新聞が全国版に掲載した。

11人制から7人制へ

第1回全日本ハンドボール競技選手権大会は昭和24年、愛知県一宮市において開催予定であったが延期となった。学制改革と共に昭和25年、高松宮杯第1回日本高等学校（新制）ハンドボール選手権が大阪、藤井寺で開催された。

昭和29年、大阪府立体育館で開催された高等学校ハンドボール7人制の大会が行われ、昭和33年頃より7人制ハンドボールが女子や中学生、並びに室内用として採用され、昭和38年全国高等学校ハンドボール選手権大会から7人制が正式種目に採用された。

発展への道のり

1948年、全日本ハンドボール選手権大会は全日本総合選手権大会に改組された。1958年の全日本教職員ハンドボール連盟にはじまり、1969年全日本実業団連盟、1975年全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部などが創設されるなど、日本ハンドボール界のめざましい発展が見られた。

しかし、一方では1958年の全日本学生選手権の分裂騒ぎや、1964年の東京オリンピックでハンドボール競技が実施競技から削除されたことなど、日本のハンドボール競技の発展を阻害させる出来事もあった。

財団法人化に向けて

かかる状況の中で、日本ハンドボール協会では、日本体育大学のＯＢとして、日本協会副会長として先頭に立ち、地方協会の組織化に努力していた故荒川氏の姿があった。荒川氏の偉大な業績としては、日本ハンドボール協会を昭和56年に財団法人にしたことである。日本ハンドボールリーグのオーナー会議を開き、日本ハンドボール協会の財団化のため、資金3千万円を全員に懇願した。

その時、真っ先に出資を約束した湧永製薬の社長、故湧永儀助氏の態度は立派であった。元ハンドボール選手であり、ハンドボールを愛する人間性をしみじみと感じさせる人物だった。その際、日本ハンドボール協会会長として、故斉藤英四郎氏が挨拶にたち、財団推進化について述べ、財団法人の会計は大福帳方式ではダメですよと何回も繰り返して話していたのが印象的であった。

日本ハンドボールリーグの発展

日本ハンドボールリーグは1975年に発足し、今年度は29回の大会となる。委員長には徳永、安藤、西村、山下、川上氏と続き、それぞれ個性的な人材でありハンドボール発展のために寄与した功績は大であった。

運営に当たっては、各企業から選出された有能な委員が企業経営の方法をリーグに活用したり、またホーム・アンド・アウェイによる開催方法や観客動員に力を入れていた。しかし、企業チームの優勝を目標とするため、活動は国内に限られた。国際的に通用するナショナルチームの養成などについては日本協会に委ねられていた。

日本リーグのオーナーの中には立派な人が多かった。大同特殊鋼の杉山氏を始め、先述の故湧永氏、オムロンの故立石氏、並びに北国銀行の米谷氏など、20数年間に亘り、日本各地の試合会場に応援に駆けつけ、選手を激励していた姿には、今でも頭の下がる思いで一杯です。

韓国の隆盛

韓国でも、故洪名誉会長や金元会長はハンドボールの各大会には必ず出席し選手を激励していたと聞いている。ソウルにおいて、両会長から韓国が函館で開催されたアジア予選で日本に惜敗した時の話を聞いた。その時の日本協会の対応が冷たく、帰国の際、東京・浅草の居酒屋で韓国協会一同が酒を酌み交わしながら、将来必ず日本に勝とうと誓い合い、それがソウルオリンピックへのバネになったと言っていた。

韓国では、官民一体となってハンドボールの発展を目指し、ソウルの草堂薬品や釜山の大韓酒造などは、政府からチームそれぞれ作って欲しいとの要請があっ

たそうだ。そしてそれぞれがチームを作り、会社を挙げて強化に努め、韓国ハンドボール協会あげての活動の結果、ソウルオリンピックで開花、念願のメダル、男子準優勝、女子優勝を遂げられた。

当時、草堂薬品の監督からナショナルチームの監督になった高氏は、背の高いヨーロッパの選手に勝つためには「試合の始めから終わりまで走り回り、チームの全員がオールアタック、オールシュートをすること」を目標に、徹底的に走り回る練習をしたと聞く。その結果、オリンピックでは幸いにも優勝できたと言っていた。

日本のナショナルチーム

日本でも、日本リーグで活躍した優秀な監督がナショナルチームの監督となり、色々努力しているがオリンピック出場がソウル以降果たせないことは大変残念なことであり、オリンピック出場は今後の日本ハンドボール競技の大きな課題として残っている。

日本のハンドボール界では、野球の王、長島に匹敵する人物として、大阪歯科大学の平岡氏、ナショナル男子の野田氏や蒲生氏、ナショナル女子の松下さんなど大選手が傑出しているが、これらの選手達の意見を生かし、名伯楽の監督を得ることが出来れば、国際的に通用する強力なチームを結成することが出来ると、心から確信している。

熊本での世界選手権開催

次いで、画期的なこととしては、1997年、男子世界選手権大会が熊本県で開催されたことである。日本ハンドボール協会や、熊本県ハンドボール協会、熊本県の人達の協力によるものと聞いている。特に、当時の知事である福島氏は素晴らしかった。日本リーグ開催の試合会場に姿を見せた唯一の知事だった。かかるハンドボール競技の理解者としての知事と、協会の熱意が多数の人達の共感を呼び、日本での世界選手権を成功させたものと思われる。

国体そして地域振興

国民体育大会はスポーツの振興をはかるための国民的行事として戦後に始った。地方自治体が実行委員会を組織し、地方協会と協力し、大会の成功に向けて運営に当たり、日本各地より集まったハンドボーラーを、ボランティアと共に大いに歓迎していた。まだハンドボールが十分普及していなかった沖縄、島根、高松、山形県の人達のご苦労は大変だったと思う。日没試合の多かった名古屋や、応援の烈しかった長野の県民性など、思い出の深い大会が多くあった。

国民体育大会には、天皇杯・皇后杯獲得のための活動など、各都道府県の地域的ないろいろの問題もあった。しかし、スポーツはあくまで明るい話題であり、ハンドボールの振興のために他の競技と共に、将来へ向かって大いに乗り越えてゆかねばならない。

南は沖縄・九州から、北は東北より北海道まで、人生の大半をハンドボールにつぎ込んだ先生方や、諸先輩のたゆまない積み重ねがあったからこそ、今日の日本のハンドボールができあがったのであり、今にして、それら先人達の面影が偲ばれ、その功績の大きさには、しみじみ考えさせられるものがある。

ジャーナリズムとの関わり

スポーツとジャーナリストとは切っても切れない関係にある。ハンドボールをよく理解し、日頃より協力されてきた読売新聞の足立氏やＮＨＫの杉山氏、スポーツイベント社の南木氏に心より感謝したい。

個人的思い出として

いろいろと前時代的なことを書いてきましたが、さらに思い出としては熊本大会へ出席しようとしたところ、鹿児島空港で事故に遭い、漸やく熊本に到着。試合に間に合わないことがわかっていたにもかかわらず、遅くまで試合会場で待っていて下さったハンドボール草分けの藤田先生の面影や、長い間、日本の女子監督としてご苦労された井氏がアテネオリンピックアジア予選の時、日本の女子代表が韓国と引き分けとなった試合を見て思わず涙ぐんでおられた姿も印象的であった。

また、天才的なプレーヤーであり、あの偉大な蒲生選手を手加減せず退場させた狩野、光島両審判のサムライ振りも見事だった。日本協会を絶えず牽制し、高邁な意見を述べておられた関西の協会の人達や、実業団関係に対して、一歩も譲らなかった日本体育大学出身の北陸の先生達も思い出として残っている。

渡辺会長（中央）、井評議員（左端）と共に

地方のハンドボール育成功労者

日本のハンドボールの振興と普及のためにそれぞれの地方で大いに活躍された人達も多い。市会議員となられた函館市の松本氏や、山形県東根市の奥山氏の活躍に対しては心から敬意を表したい。

冬が長くハンドボールチームの育ちにくい北海道にあって、日本の大きな大会を次から次へと開催している函館の駒林氏に対しても頭が下がる思いでいっぱいだ。昨今の経済情勢から、日本リーグの女子が廃部してゆく傾向があるが、第１回大会より長年にわたり日本リーグで活躍されてきた「ムネカタ」の東北特有の粘り強さに対しては心から敬服している。

なお、同じブレザーコートを着用して活躍されていた青森県協会の若い役員の方々の姿を見たとき、今後のハンドボールを若い力で引っ張ってゆく力強さが感じられ、心に爽やかさが残ったのを鮮明に覚えている。

終わりに

最後に、日本のハンドボールを今日まで発展させてこられた日本協会の歴代会長を始め、歴代役員の皆様の努力に対しては、心から敬意を表し感謝していますが、今後の日本のハンドボールの将来を考えると、日本協会の指導の重要性は増すばかりであり、国際交流も進み、国際試合も多くなり、ビーチハンドボールなどハンドボールの多様化、世界選手権やオリンピック出場権獲得など、今後はいろいろの課題が残されていますが、ハンドボールを愛する人たちの努力が集大成され、蒲生強化本部長を中心に若い力が結集し、いつの日か、日本のハンドボールが、世界に向かって大いに飛躍することを心から期待いたしたい。

世界への道

アテネ五輪で銀メダルを獲得した韓国女子。そのチームを支えたのが96年世界の女王・林五卿。世界で最も小さいセンターといわれた中で、世界最高の高度な技を駆使してリーダーシップを発揮してきた。

広島メイプルレッズの前身イズミに加わって11年目。いまや監督兼任として多くのタイトルをつかんできた。世界で培った経験は育成から戦術、戦略にまで抜群の手腕を見せる。そうした彼女が世界への歩みを振り返りながら、第2の古里・日本へ貴重な提言をしてくれた。

今号から3回にわたり、本誌フリースローでお馴染み、ジャーナリスト：早川文司氏が林五卿監督にインタビューを行ってくれました。ご期待下さい。

―まず、アテネ五輪銀メダル獲得おめでとう。

林　悔しさよりもいろいろなことを考えると、心が痛かった。子供や夫を残して参加したのに、大会3週間前に足を傷めた。1週間練習を休んだし、テーピングをしたり、薬を飲みながらプレーしたが「私は何をしたのだろうか」と思うと涙が出た。

でも、アテネより出場切符を取る世界選手権の方がきつかった。とにかく5位以内に入ることにプレッシャーがあった。メンバーも大幅に代わっていたし、呉（成玉、広島メイプルレッズ）と2人でチームをまとめる役目だったが、イライラしたこともあった。

―さて、ハンドボールとの出会いから話を聞こう。

林　小学校3年生の時に体育の授業のあと先生から誘われた。でも、当時は勉強がしたかったし、グラウンドでの練習がきつそうだった。また、スポーツにあまり興味もなかったので、逃げ回っていた。しかし、4年生になって無理やりやらされた。まず1週間…。

学校にはハンドボール部しかなかったし、体育の先生が監督だったのだが、すぐうまくなった。何をしても一番だったので「センスあるのかな」と思うようになり、続けることになった。でも、よく殴られるなどスパルタ練習だった。（笑い）

1カ月後にはベストメンバーになり、右サイドをやって、7ゴールのうち4ゴールを決めた。その小学校は全国で3強の力があった。その後はセンターや45度を任されてプレーしてきた。

インタビュー中の林監督（左）と早川氏：2004年12月

―中学入学前にはあちこちからスカウトされたようだが。

林　いろいろな学校から誘いがあったが、親が遠いところはだめというので地元に入学した。1年ですぐレギュラーになれたが、3年では4大大会のうち3大会で優勝した。国体では決勝で延長で負けたが、新聞やテレビで取り上げられ、地元では優勝パレードもあった。MVPにも選ばれ、ますますハンドボールが楽しくなり上を目指す目標が出来た。

―そこまでには相当の努力があったのでは。

林　中学でも合宿は厳しかった。朝は6時から山登りのあと授業を受け、午後と夜には練習が待っていた。

また、自宅でも父が作ってくれた器具でウエートトレーニングや山登りなどをして身体を鍛えた。通学の時もジャンプ力をつけるためカカトを上げて歩いたし、練習では苦手なプレーを人が1回なら3回するなどマイナス面を早くプラス面にするよう心掛けた。

―中学3年でジュニア代表入りし、高校でもソウル五輪後に2年生でフル代表に選ばれた。

林　ジュニアでは呉と一緒になった。彼女は身長もあったし、パワーがあったのを覚えている。メンバーは大学1、2年生もいたし、私たちが最年少だった。高校ではハンドボールの面白さというより代表入りを目標に置いていた。とにかく最初はベストメンバーになろうと心に決めたので、実現するまで男性には興味はなかった…（笑い）。高校3年では実業団や大学にも勝つほど強いチームになっていた。

林五卿プロフィール

林　五卿（イム・オキョン）1971年12月11日生まれ。韓国が輩出した世界最高レベルのセンタープレーヤー。韓国井邑高から韓国体育大出身。92年バルセロナ五輪、95年世界選手権で金メダル。銀メダルだった96年アトランタ五輪では得点王と活躍、この3大会でいずれもベストセブン。昨年のアテネ五輪ではリーダーとして銀メダル獲得に貢献。96年世界最優秀選手に選ばれた。94年、イズミ（現広島メイプルレッズ）創部と同時に加わり97年から監督兼任。全国制覇は21回。
167センチ、60キロ。利き腕右。血液型O型。98年バドミントン選手の朴星宇さんと結婚。長女朴世敏ちゃんがいる。

―大学入学でも多く誘いがあったようだが。

林　あちこちから勧誘されたが、最後は2つに絞った。結局は韓国体育大に入学したが、もう一つは強い大学だった。でも、ハンドボールを続けるにはスポーツが専門の学校だし、鄭先生（鄭亨均前中国代表監督）の指導体制がしっかりしていたので決めた。現在までのハンドボール人生にプラスになっているし、今でも韓国体育大出身は私の自慢。

―92年のバルセロナ五輪で初めて世界の頂点に立ち、96年のアトランタ五輪では得点王にもなったわけだが…。

林　勝つのは当たり前の感じだった。あれだけ一生懸命練習をやってきて、前向きに考え、集中力を高めて戦うことが出来た。当時、監督だった鄭先生が言っていたことが出来たから頂点にも立てた。

その言葉とは「ヨーロッパ勢は身長が180センチ、体重が90キロくらい身体が大きい。アジア勢は小さい。だから彼らを倒すためには何をするか。まずスピードで負けない。そして次には頭を使ったプレーをする」だった。それを信じてスパルタ練習にも我慢してついていけたし、勝ったことで先生の指導が通用したと実感できた。でも、本当に合宿はきつかった（苦笑）。

韓国が勝ったことで世界が見習って「スピードハンドボール」に流れが変わってきた。

―95年には世界選手権でも優勝するなど、世界の頂点を守り続けた。

林　94年から日本（イズミ）に来ていたし、韓国代表メンバーも大幅に代わった。アトランタ五輪の時には、外国でプレーしていたのは私ひとりだったし、主将という重責も担った。だから今回のアテネ五輪や昨年の世界選手権よりもチームをまとめる面で精神的にも相当に苦しかった。でも、身体の方はまだまだバリバリだった。呉選手もケガをしていたし、銀メダルに終わった時はとっても悔しかった。

今回、アテネ五輪では銀メダルが取れたが、私は決して今の韓国のレベルが上がってのメダルではないと思う。世界のレベルが落ちているからだろう。韓国も選手の考え方が変わってきており、全体的に甘くなっている。感謝の心がないし、個々の選手が自分を管理できなくなった。そうした点を指導者はしっかり教える必要があると思うのだが…。

―林五卿として世界の舞台とはどんなものか。

林　ひと口で言えば世界のハンドボールの仲間入りがしたい気持ちがずっと強かった。これまでにも世界選抜のメンバーに選ばれてプレーしたこともあるが、いま出来るかどうかはともかく、そうした多くのチャンスを持ちたいと思っている。なんというか、言葉は悪いけど《ハンドボールに狂っている人たちとハンドボールをしたい》思いはずっと持ってきた。

―今後の代表活動は？

林　これ以上はダメ（笑い）。でも、世界のレベルが下がっているのでまだ出来るとは思っているが…。

第59回全日本総合優勝広島のメイプルレッズのメンバーと（前列右端が林監督）

本場ヨーロッパのハンドボール界に飛び込んで

湧永製薬、日本代表選手として活躍され、熊本世界選手権ではコーチとして活動してこられた酒巻氏が過日、湧永製薬を退社、ヨーロッパ指導者武者修行に出られました。酒巻氏から機関誌宛レポートが届きましたので掲載致します。今後も継続してヨーロッパ事情を報告してくださるとのこと、ご期待下さい。　（編集委員会）

はじめに

６月に湧永製薬を退社しました。それはハンドボールの本場ヨーロッパでの研修を希望したためです。その機会を模索していたとき、熊本世界選手権で代表チームの指揮を執られたオレ・オルソン氏から全面的なバックアップをえられることとなりました。先日、ようやくスウェーデンのマルメを拠点とし活動がスタートしましたので報告致します。

観戦開始

ドイツ・ブンデスリーガでは名将ケントハリー・アンダーソン率いるＳＧ Flensburg-Handewitt のトレーニング参加及びゲーム観戦、早船さん（GOG Gudme）が活躍する女子版ブンデスリーガと言われるデンマーク女子国内リーグ巡回観戦。スウェーデン男子リーグにおいては長年代表チームのゲームメーカーを務めたマグヌス・アンダーソンが新監督として着任した Drotte Halmstad（Halmstad には元 SWE 代表監督 Bongt Johansson 氏がいる）を中心にイエテボリあたりまでフォローしました。その他国内リーグの合間を縫って開催されるヨーロッパカップにおいては各地に足を運び情報収集に忙しくなりそうです。

また、男子では世界選手権、女子ではヨーロッパ選手権の前哨戦が各地で始まっています。11 月 16 日からスウェーデンで開催されるワールドカップには、オリンピックのメダリストのクロアチア、ドイツが参加予定で決勝までの 12 試合を観戦する予定です。もちろん、来年チェニジアで開催される世界選手権で日本と予選リーグ同グループに入るスウェーデンも参加しますから、世界選手権に対する準備としての情報活動も行えそうです。（すでに、スウェーデン連盟には日本の Sakamaki という人物がきているという情報は入っているそうですが、現時点ではコンタクトはきていません。もちろん日本の情報は極秘です。）

早船選手と共に。左端は奥様

アンダーソン監督（右端）と共に

今後の活動と抱負

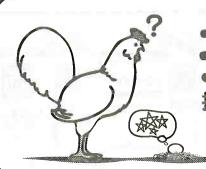
長々と活動状況を説明致しましたが、簡単に申し上げるとスカンジナビアの国々とドイツ北部からフランクフルトあたりまでを中心に活動し、現時点で限界を感じている私自身のコーチング能力に新しい「知・血」を注ぎ、今後日本の選手達のレベルアップに繋がる「力」が備わるかどうかの確認をしてみたいと思っております。また、現在日本で囁かれている地域と密着したクラブ運営も勉強できればと考えています。クラブについては漠然とは理解しているものの実際、現実にふれてみて今後日本でも実現できそうなケースを発見できれば幸いと思っております。

すでに日本を離れて 10 日を過ぎましたが、ゲーム観戦は５試合、TV では４試合、新聞では毎日、といったペースでハンドボールには触れています。残念ながら日本では、今夏盛り上がっていたオリンピックの中に「ハンドボール」の文字は見られませんでした。しかしながら、神戸での予選や熊本でのパフォーマンスを振り返ってみれば日本人選手達の「質・能力」は世界に引けを取っていません。限られた資金と時間でどれくらいの活動が出来るかわかりませんが、出来る限り多くの指導者に会い、世界の中心で行われているゲームがどのようなものなのか肌で感じられればと思っております。

次回は、デンマークリーグを旅する「デンマークの車窓から」をお送り致します。

山田永子のノルウェー研修日記①

オープンであり、個が大切にされた雰囲気

全日本チームで活躍されました山田永子さん（筑波大学大学院修了）が、ＪＯＣ在外研究員として昨年８月１日に日本を発ちました。研修場所はノルウェーを拠点にヨーロッパ各地でおこなうとのことです。今号より北欧、ヨーロッパのハンドボール事情を報告して頂きます。ご期待下さい。（機関誌編集委員会）

ロッククライミングする山田さん

▶初めに◀

私のノルウェー研修生活４ヶ月が過ぎました。８月のノルウェーは風が涼しく日差しの強い夏だったのですが、いまはすっかり雪国になっています。私の研修場所はノルウェーの首都オスロにあるBSKというクラブチームです。首都と言っても路面電車で15分もすれば静かで広大な緑が広がっています。普通の道路でクロスカントリーのトレーニングが出来る雪の多さ、気温はマイナス、名古屋育ちの私にとっては驚きの連続です。

▶活動開始◀

始めの１ヶ月は何もかもが手探り状態で、何をするにもすごく疲れました。しかし、そんな中でもクラブの方々の温かい受け入れ、サポートのお陰で徐々に慣れることが出来ました。ここでは、目が合うと自然と素敵な笑顔を向けてくれます。笑顔で微笑みあうことから、知らない人同士でも自然と話をする雰囲気ができます。クラブ全体がファミリーだという雰囲気が感じられます。また、練習に参加する選手は決まったメンバーはいるものの、OGや友達、兄弟を連れてきたり、ほかの競技の選手が練習に参加したり、競技に疲れて休憩中の選手が時々顔を出したりと多様です。また、チームの中には〈for the top〉から〈just for fun〉の人までいます。なんとなくではなく、自分の将来を考えてハンドボールに対する自分の価値観、今の優先順位をはっきりコーチに伝えて、その上で参加しています。チームのメンバーが分からない始めの頃は、練習のたびに知らない顔が増えるので、不思議に思いました。選手は、「体育館に行けばコーチがいて、ハンドボールが楽しめる」と思っています。コーチは練習の始めに選手を握手で迎え、終わりにはコーチからお礼を言って終わります。日本とは、全く違う雰囲気だということが分かると思います。選手が受身に見えますが、役割分担がはっきりしているとも言えるでしょう。このような雰囲気が普通なので、ハンドボールがしたいと思う人が自分の状況に合わせて、気軽に体育館にきて練習に参加することができます。選手だけでなく、近所の方やサポーターが立ち寄って練習見学をするなど体育館は憩いの場になっています。この全体の雰囲気がハンドボールに長く関われる秘訣の一つだと思います。

▶子供のハンドボール導入◀

クラブチームにはハンドボールの種目のほかサッカー、インナバンディ（室内ホッケー）、オリエンテーリング、スキーがあります。7、8歳は週に１～２回の頻度でクラブ内にある種目を体験します。クラブの子達にハンドボールを始めた時期を聞いたところ、ほとんどの子が６歳でした。中には５歳という子もいました。7、8歳で色々経験した後、９歳からは専門種目を選択することになるのですが、９歳から15歳までは１歳ごとにチームがあり練習と試合が行なわれます。単純に計算しても、日本の選手より試合経験が多い環境だと言えます。練習の頻度は週に２回、上に上がるにつれ頻度は増えます。週に２回程度なので、ほかの種目と平行して行なうことも可能です。ハンドボールを選択した選手はサッカーを兼ねてやっていたことが多いです。

▶ユースのハンドボール◀

16と17歳、18と19歳はそれぞれ一緒にチームを作り、そしてそれ以上の年代では２種類の成年チームがあります。年代ごとに人数は様々ですが、多くても14人程度で常に全員がプレイしています。この細かいチーム編成により、一人一人が１時間または１時間半の限られた時間の中で充実した練習が可能になっています。ノルウェーの女子ナショナルチームの練習を見学したときにも、２つのクラブチームを相手に選考された14人が２つのコートに別れ、コーチとサブコーチがそれぞれに指導し、練習全体を通して全員がプレイしていました。見ている時間を作らない、練習に来ているプレイヤーを常にプレイできる環境を作ろうという配慮が随所に感じられます。私が任された初めての練習で、あるコーチが私にアドバイスしてくれたことは〈レベルの差があるけれど、全員がもっとプレイしたい、シュートを打ちたい、もっとゲームしたいと思っているから、その点を注意して練習をして欲しい〉ということでした。以前、練習終了２分前にキリがよいので終了したときには、選手からまだできると指摘されてしまいました。時間ぎりぎりまでハンドボールをしたいという、高いモチベーションが伝わり、反省すると同時に嬉しく思いました。

日本では中学１年、高校１年は上級生に比べて体力的な差が大きいために、よく言えば「温める時期」となり、試合から離れがちです。また、人数の多いチームなども同様だと思います。試合などの目標が見えずに、モチベーションを高く持ちつづけることは過酷です。指導側、サポート側の工夫でより多くの試合環境、より楽しめる環境を提供することできればハンドボール大好きっ子がもっともっと増えること間違いなしだと思います。

練習風景

スコアルーム ①

チェリーカップ：第12回東日本小学生ハンドボール大会 兼第6回東北ブロック小学生大会

開催期日：平成16年8月14日（土）～16日（月）
会　　場：山形県東根市民体育館

【男子の部】

優　勝　水海道ハンドクラブ（茨城県）
第２位　東根ハンドボールスポーツ少年団（山形県）
第３位　富岡イーグルス（群馬県）
第４位　本宮ハンドボールスポーツ少年団（福島県）

■予選トーナメント
〈Ａブロック〉
１位：富岡イーグルス（群馬県）
２位：本宮ハンドスポ少（福島県）
３位：尾花沢ハンドスポ少（山形県）
４位：リトルハンド（岩手県）
〈Ｂブロック〉
１位：水海道ハンドクラブ（茨城県）
２位：東根ハンドスポ少（山形県）
３位：湯沢ハンドスポ少（秋田県）
４位：福島Jrハンドクラブ（福島県）

■決勝トーナメント準決勝
水海道クラブ（茨城県）　22（12－1、10－3）4　本宮スポ少（福島県）
東根スポ少（山形県）　8（4－2、4－5）7　富岡イーグルス（群馬県）

■５・６位決定戦
湯沢スポ少（秋田県）　10（6－3、4－3）6　尾花沢スポ少（山形県）

■３位決定戦
富岡イーグルス（群馬県）　14（8－1、6－3）4　本宮スポ少（福島県）

■決勝
水海道クラブ（茨城県）　13（6－3、7－4）7　東根スポ少（山形県）

【女子の部】

優　勝　富岡ラビッツ（群馬県）
第２位　東根ハンドボールスポーツ少年団（山形県）
第３位　本宮ハンドボールスポーツ少年団（福島県）
第４位　尾花沢ハンドボールスポーツ少年団（山形県）

■予選
＜Ａブロック：予選リーグ＞
１位：富岡ラビッツ（群馬県）
２位：本宮ハンドスポ少（福島県）
３位：玉野ハンドスポ少（山形県）
＜Ｂブロック：トーナメント＞
１位：東根ハンドスポ少（山形県）
２位：尾花沢ハンドスポ少（山形県）
３位：リトルハンド（岩手県）
４位：玉野小学校（山形県）

■決勝トーナメント準決勝
東根スポ少（山形県）　3（2－9、1－3）12　本宮スポ少（福島県）
富岡ラビッツ（群馬県）　18（11－1、7－5）6　尾花沢スポ少（山形県）

■５位－６位決定戦
玉野スポ少（山形県）　7（4－2、3－2）4　リトルハンド（岩手県）

■３位決定戦
本宮スポ少（福島県）　6（3－1、3－1）2　尾花沢スポ少（山形県）

■決勝
富岡ラビッツ（群馬県）　12（4－3、8－1）4　東根スポ少（山形県）

スコアルーム ②

第６回全日本ビーチハンドボール大会

期　日：平成16年9月4日（土）、5日（日）
会　場：富浦町原岡海水浴場

＜男子＞

初心者マーク　2（10－4、11－12、4－3）1　東北電力ハンドボールクラブ
微少年100％　2（15－5、10－9）0　サンバｄｅ☆
微少年100％　2（14－9、12－9）0　東北電力ハンドボールクラブ
初心者マーク　2（8－6、8－6）0　サンバｄｅ☆
サンバｄｅ☆　2（10－4、8－11、2－1）1　東北電力ハンドボールクラブ
初心者マーク　2（5－9、9－8、2－0）1　微少年100％

＜最終順位＞
優　勝　初心者マーク（神奈川県）（初優勝）
準優勝　美少年100％（埼玉県）
第３位　サンバｄｅ☆富浦（千葉県）

＜女子＞

千葉クラブ　2（9－5、11－7）1　Zizzy
あぶらおおめ　2（11－10、10－9）0　藤　乃
Zizzy　2（6－11、10－8、5－4）1　愛媛みかん
あぶらおおめ　2（12－10、13－4）0　千葉クラブ
藤　乃　2（14－6、13－7）0　愛媛みかん
あぶらおおめ　2（16－4、12－9）0　Zizzy
藤　乃　2（20－11、18－17）0　千葉クラブ
あぶらおおめ　2（9－5、12－4）0　愛媛みかん
藤　乃　2（7－2、12－6）0　Zizzy
千葉クラブ　2（12－10、4－6、4－3）1　愛媛みかん

＜最終順位＞
優　勝　あぶらおおめ（東京都）（初優勝）
準優勝　藤乃～女将と愉快な仲間たち～（東京都）
第３位　千葉クラブ（千葉県）

スコアールーム③ 第56回全日本総合ハンドボール選手権大会

開催期日：2004年12月14日（火）～18日（土）
会　　場：大阪市立中央体育館

【男子の部】

優　勝　湧永製薬
＊2年連続13回目の優勝
第２位　大崎電気
第３位　ホンダ
第３位　大同特殊鋼

■1回戦

日本体育大学　47（22－６、25－６）12　八光自動車
ＨＣ岡山　23（10－７、13－９）16　トヨタ自動車
筑波大学　42（19－17、23－12）29　那覇西クラブ
大同クラブ　30（15－８、15－12）20　豊田合成

■2回戦

日本体育大学　30（14－10、16－11）21　北陸電力
ホンダ熊本　29（16－８、13－12）20　ＨＣ岡山
トヨタ車体　29（17－15、12－12）27　筑波大学
大同クラブ　30（15－10、15－15）25　アラコ九州

■準々決勝

ホンダ　31（17－９、14－15）24　日本体育大学
大崎電気　31（17－９、14－21）30　ホンダ熊本
湧永製薬　25（14－14、11－８）22　トヨタ車体
大同特殊鋼　28（17－８、11－８）16　大同クラブ

■準決勝

大崎電気　29（15－11、14－10）21　ホンダ
湧永製薬　27（13－８、９－14）26　大同特殊鋼
（１－１延長４－３）

■決　勝

湧永製薬　28（13－13、11－11）26　大崎電気
（２－０延長２－３）

【女子の部】

優　勝　広島メイプルレッズ
＊6年連続7回目の優勝
第２位　オムロン
第３位　北國銀行
第３位　ソニーセミコンダクタ九州

■1回戦

ＨＣ岡山　26（14－10、12－９）19　武庫川女子大学
東京女子体育大学　18（10－４、８－12）16　ＨＣ名古屋
筑波大学　33（16－13、17－６）19　香川銀行Ｔ・Ｈ
大阪教育大学　23（８－11、15－11）22　小松市立高校

■準々決勝

広島メイプルレッズ　32（19－13、13－15）28　ＨＣ岡山
北國銀行　33（16－９、17－11）20　東京女子大学
ソニーセミコンダクタ九州　38（17－14、21－12）26　筑波大学
オムロン　39（23－９、16－８）17　大阪教育大学

■準決勝

広島メイプルレッズ　38（20－９、18－11）20　北國銀行
オムロン　24（９－12、15－６）18　ソニーセミコンダクタ九州

■決　勝

広島メイプルレッズ　25（14－10、11－13）23　オムロン

《スコアールーム④》　第22回山口県学生ハンドボール選手権大会秋季大会

開催期日：平成16年11月20日・21日　　会　　場：山口大学本部体育館

■リーグ戦

山口大学本部　23－14　宇部高専
山口大学医学部　25－８　徳山高専
山口大学本部　43－10　徳山高専
山口大学医学部　25－24　宇部高専
宇部高専　30－14　徳山高専
山口大学本部　23－７　山口大学医学部

■順　　位

１位　山口大学本部
２位　山口大学医学部
３位　宇部高専
４位　徳山高専

■優秀選手

鈴田　雅貴（山口大学本部）
藤本　靖雄（山口大学本部）
片岡　俊輔（山口大学本部）
川添　智広（山口大学医学部）
清水　弘毅（山口大学医学部）
才野　壮平（宇部高専）
白神　亮太（宇部高専）

■得点王

清水　弘毅（山口大学医学部）

平成16年度全国理事長会

期　日：平成16年10月23日（土）
場　所：八潮商工会館会議室
出席者：55名（理事長41名、役員14名、オブザーバー若干名）

1. 全体会

1）日本協会からの現状報告及び今後の方向性について
2）「がんばれハンドボール10万人会」の事例発表（千葉県協会、福島県協会）
3）平成15年度日本ハンドボール協会表彰

2. グループディスカッション

6グループに分かれ①国体改革と②登録制度と登録金の改定について議論された。

3. グループの報告

第1グループ

- 登録制度については、値上げは致し方ない。個人登録も検討した方が良い。日本協会としても前向きに考えて欲しい。
- 国体改革については、市町村から会場数が足りないので、グラウンドでどうかという案が出た。8年後なのでよりよいものになるように考えて欲しい。

第2グループ

- 登録制度については、一般の登録金は高すぎるので、代わりに個人登録金を徴収した方が良い。
- 国体については、出場枠として登録チーム数比率のブロック割り当て以外に特別枠があった方が良い。学生の参加については地元に選手を取られてしまうので、人数制限を設ける。

第3グループ

- 登録制度については、個人登録金は1,500円（大阪府）、全競技者から30円（山口県）、目的意識がないと集まらない（大分県）、県としてかなり前から行っているが問題はない（埼玉県）
- 国体については、日本リーグが出場しなければ、他の社会人チームがもっと頑張れるが、なかなか難しい問題である.

第4グループ

- 登録制度については、個人登録を値上げで対応する。値上げのメリットを明確にする。例えば小学生大会やJOCジュニアオリンピック大会の参加数を増やしたり、大会数を増やす。それらの宿泊・交通費の援助にする。ヨーロッパの指導者や栄養士などによる指導会の援助。

第5グループ

- 登録制度については、日本協会に長期ビジョンを考えて貰う（8年位）。個人登録証の発行と小学生、中学生は無料で。
- 国体については、都道府県対抗の大会であるので、40＋40＝80チームの出場により行えばほぼ各都道府県より出場出来る。都道府県のチーム数に予定出場数を変える。日本リーグチームは出場させない。

第6グループ

- 登録制度については、値上げは仕方ないが、全国大会出場チームなどに還元して欲しい。値上げの場合は、使用目的などを公表して欲しい。
- ジャパンオープン大会について、シニアは現状維持、U18＝選抜大会などをなくしてこの大会にする、U15＝日本協会に登録しているチーム（クラブチームだけでなく学校単位のチームも含め）の大会、U12＝一番お金が出そうなので、参加させるから是非やって欲しい。

4. 新潟県中越地震義援金

国体開会式当日の10月23日に発生した新潟県中越地震による被災者への義援金募金活動が大会3日目より各会場において行われ、総額50万円余が集まりました。ご協力ありがとうございました。集められた義援金は埼玉県ハンドボール協会より埼玉新聞社を通じ被災者の皆様へ渡りましたことをご報告申し上げます。ありがとうございました。

平成16年度11月常務理事会

日　時：平成16年11月13日（土）
場　所：青山メトロ会館　2F会議室
出席者：渡邊会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事7名、理事1名、監事1名、事務局5名

審議事項

1. 平成16年度第二次補正予算について

資料により平成16年度第二次補正予算の説明がなされた。

2. 北京オリンピックアジア予選について

北京オリンピックのアジア予選を日本で開催することが提案され、開催意向を渡邊会長からAHF総会で表明して頂く事にした。

3. 強化体制について

緒方強化本部長のソニー監督就任に伴い専務理事が兼任代行してきたが、蒲生理事の強化本部長就任をお願いするために市原副会長が中部大学を訪問、学長らと面談し快く承諾頂いた。本日をもって大西強化本部長代行から蒲生理事が強化本部長に就任する。

4. ナショナル選手国際試合出場記念トロフィー授与について

国際試合出場記念トロフィー授与が、ここ数年滞っていたので6選手に関して全日本総合時に授与を行う。

5. 日本協会ホームページ上での情報公開について

資料の説明が事務局長よりなされた。前回提示された原案通り、HPにて情報公開を行う。

6. 登録制度について

国体時の全国理事長会において高校生の個人登録金、登録金値上げ方向の了承は得られた。本日11月の理事会で趣旨説明、来年2月理事会で改正審議（継続）、来年6月理事会で基本的合意、来年11月理事会で改正承認し、平成18年4月より実施する。

7. 向こう5年間の叙勲及び褒章予定者について

平成18年度春以降の掘り起こし作業を進める。

8. 読売新聞「日本スポーツ賞」候補選定

小松市立高校（高校三冠達成）を推薦する。

9. IHF総会、役員選挙について

IHF役員立候補者一覧が提示され、選挙に関しては渡邊会長、市原副会長に一任する。

10. その他

toto資金が厳しい状態であり、NTSの運営に関しても大変厳しい状態である。申請に関しては委員会に一任する。

報告事項

1. 世界ビーチハンドボール選手権大会2004エジプト

大会日程と参加メンバーが示された。本間団長が体調不良のため不参加。原田氏が団長、監督兼任とする。選手2名が家事都合で不参加。

2. 第17回男子第6回女子世界学生選手権大会役員・選手名簿

＊危機管理について

大会の日程、参加大会役員、スタッフ、選手が示された。危険地域での開催であるので、所属長、本人・保護者の同意書を取ることの説明がなされた。

今後とも外務省の海外安全情報などを参考に遠征の準備をして行くこととする。

3. 第19回男子世界選手権2005チュニジア日本代表選手候補について

資料により暫定的なメンバーが示された。団長には蒲生強化本部長。

4. 全日本総合選手権大会出場チーム及び組合せについて

組み合わせが発表された。モバイル放送について、今回は承認。

女子・小松市立高校の参加料については日本協会が全額負担する。

5. 平成17年度全国大会・国際大会日程について

平成17年度の国際・全国大会の日程が示された。

6. 平成16、17年度日本協会会議日程

平成17年度の日程が示された。今後評議員会は寄附行為通り理事会開催以前に行う。

7. 平成16年度全国理事長会報告

資料により説明がなされた。協会表彰に関して当日は発表、表彰状は後日発送済み。グループディスカッションにおいて登録費値上げに関しては概ね賛成であった。

市原副会長から、国体改革では国体を「日本の最大最強の大会」と位置づけているため、日本リーグ勢をはずすことについては検討を要する旨発言がなされた。

国体時、中越地震募金箱を設置し募金を集り、埼玉県協会が埼玉新聞を通じ寄附をした。

機関誌、HPを用いて広報する。

8. 第59回まごころ埼玉国体結果について

資料を用いて説明がなされた。優勝回数について国体局では種別名での回数を表記するが、日本協会としては都道府県、チームとしての回数も併記する。

9. 国体「ふるさと選手制度」再確認

来年度の国体より成年種別に「ふるさと選手制度」が実施される。現在学生に適用されているものと同様であるが、ふるさとは2回変えられる。

10. 第62回秋田国体ハンドボール競技会期について

秋田国体は夏秋季同一大会となっているため秋期の表記はない。ハンドボールの会期は後半部となる。

11. スポーツ拠点作りについて

宝くじの資金を用いて総務省と文科省が行う事業。都道府県には既に周知してあり昨日が申し込み締め切りであった。

12. マーケティングについて

ナショナルチームのスポンサーとして2企業申し出ている。男女で分けるかも含めて12月頭までに検討、決定する。

13. 日本協会規定集について

文科省から追加要請のあった部分を今回加える。常務理事の分掌担当にクラブ担当が入っていないので検討する。

14. 第2回JISS国際スポーツ科学会議2004開催の案内

会議参加についての検討の必要性が述べられた。

15. 平成17年度上半期国立スポーツ科学センター利用計画について

資料により説明がなされた。

16. 第7、8回全国ハンドボール研究集会について

今年度に続いて、来年度も熊本開催される。

17. がんばれハンドボール10万人会について

資料により説明がなされた。

18. その他

ミュンヘンオリンピックのメンバーが正しく記載されていないことが判明したので、次回までに経過報告して、正しい記録を日本協会に残す。

平成16年度第2回理事会

日　時：平成16年11月13日(土)
場　所：青山メトロ会館4F
出席者：渡邊会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事7名、理事6名、参事9名、監事2名、事務局5名

審議事項

1. 平成16年度第二次補正予算について

資料により平成16年度第二次補正予算の説明がなされた。

2. 強化体制について（競技力向上概念図）

蒲生氏の強化本部長就任を本日の会議をもって認める。

3. ナショナル選手国際試合出場記念トロフィー授与について

全日本総合時に授与を行う。

4. 日本協会ホームページ上での情報公開について

ホームページにより情報公開を行う。

5. 登録制度について

登録を通してハンドボール競技をしている人全てを把握する。値上げに関しても平等感を持って受入れてもらう体制を作る。改正までの流れが示された。

次回理事会までに具体的な案を提示する旨提案された。

6. 向こう5年間の叙勲及び褒章予定者について

該当者掘り起こし作業を進める。選定については正副会長に一任する。

7. 読売新聞「日本スポーツ賞」候補選定

市立高校（高校三冠達成）を推薦する。

8. 北京オリンピックアジア予選大会について

地元開催がナショナルチームへの一番のバックアップとなる。12月のAHF、IHF総会で渡邊会長に日本実施表明して頂く。お金の問題はあるがぜひ実現させたい。

9. IHF総会、役員選挙について

選挙に関しては渡邊会長、市原副会長に一任する。

報告事項

内容は常務理事会と重複するので項目のみ記入

1. 世界ビーチハンドボール選手権大会2004エジプト
2. 第17回男子第6回女子世界学生選手権大会役員・選手名簿
3. 第19回男子世界選手権2005チュニジア日本代表選手候補について
4. 全日本総合選手権大会出場チーム及び組合せについて
5. 平成17年度全国大会・国際大会日程について
6. 平成16、17年度日本協会会議日程
7. 平成16年度全国理事長会報告
8. 第59回まごころ埼玉国体結果について
9. 国体「ふるさと選手制度」再確認
10. 第62回秋田国体ハンドボール競技会期について
11. スポーツ拠点作りについて
12. マーケティングについて
13. 日本協会規定集について
14. 第2回JISS国際スポーツ科学会議2004開催の案内
15. 平成17年度上半期国立スポーツ科学センター利用計画について
16. 第7、8回全国ハンドボール研究集会について
17. がんばれハンドボール10万人会について
18. その他

葦原理事から日本協会のHPに各都道府県のページを設けてはどうだろうかとの発言がなされた。各都道府県あたり1ページ程度で有れば技術的に可能であると回答され、早急に対応する。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

■11月会員

【岩手】箱崎敬吉【栃木】坂本定芳【群馬】高橋　潔【埼玉】岡村昭二、半谷綾奈【千葉】藤田八郎【東京】蒲生澄子、堀江成典、川上整司、佐藤俊男、佐藤映子【神奈川】田原やよい、夏山真也【富山】吉水慎一、高林　史【福井】松長　賢、佐々木静夫、角谷喜代重【愛知】冨田寛治、佐藤壮一郎、野田　清、西口誠一郎【三重】大石道子、大石博義、細野秀男【岐阜】杉山二女代【京都】守本幸三郎、藤本章子【奈良】松江　徹、松江真理子【広島】松本昌之、樋野村　勉【香川】末澤光夫【愛媛】越智　誠、越智理佳、越智裕介、越智皓平、越智聡郎、加藤誠一【福岡】宮内貴博【長崎】石井弥生

■12月会員

【福島】宗形守敏【千葉】窪田　優【東京】沢登弘和、渡邊佳英、三浦丈治、浜田浩和、岡前義春【神奈川】加古川正巳【新潟】庭山政幸【富山】徳前美智子【石川】伊藤義直【静岡】鈴木梨乃【愛知】山田壮八、太田耕治【滋賀】高畠典克【大阪】城内松義【奈良】神林道代【鳥取】萬　隆志【広島】山本伸二、白石　隆、山本恭平【山口】中畠昭義、木原　節

【2月の行事予定】

【会議】

2月５日（土）　第２回評議員会（東京）

2月19日（土）　常務理事会（東京）

2月19日（土）　第３回理事会（東京）

2月20日（日）　事務取扱責任者会議（東京）

【大会】

2月11日（金）～13日（日）

全日本実業団チャレンジ2005（高知県・春野町）

2月12日（土）　日本リーグ　大崎電気vsホンダ（15：00ー東京・駒沢体育館）
テレビ埼玉にて放映（放映時間：同日19：00～21：00）

HAND BALL CONTENTS Feb

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

HP300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)
カラー：イエロー

HP200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校
カラー：イエロー

数々のテクノロジーがプレイをサポートします

株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四五七号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十七年一月二十六日印刷
平成十七年二月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円